

市民及び利用者等の各種ニーズ調査の実施結果（概要）

目 次

1) 市民アンケート調査	1
(1) 調査の概要	1
(2) 調査結果の概要（抜粋）	1
2) バス乗降調査	11
(1) 調査の概要	11
(2) 調査結果の概要（抜粋）	11
3) バス利用者アンケート調査	16
(1) 調査の概要	16
(2) 調査結果の概要（抜粋）	17
4) 企業アンケート調査	33
(1) 調査の概要	33
(2) 調査結果の概要（抜粋）	33

市民及び利用者等の各種ニーズ調査の実施結果（概要）

1) 市民アンケート調査

(1) 調査の概要

①調査の目的

本調査は、市民から見た公共交通の課題を抽出するとともに、現計画で定めた目標の達成度評価や計画の方向性、こまくる再編に対する意見などを把握することを目的として実施しました。

主な内容は、回答者属性（性別、年齢、居住地等）、公共交通の利用状況、満足度、重要度、こまくるの今後の方向性、市内公共交通の維持・活性化の考えなどです。

②調査対象及び調査方法

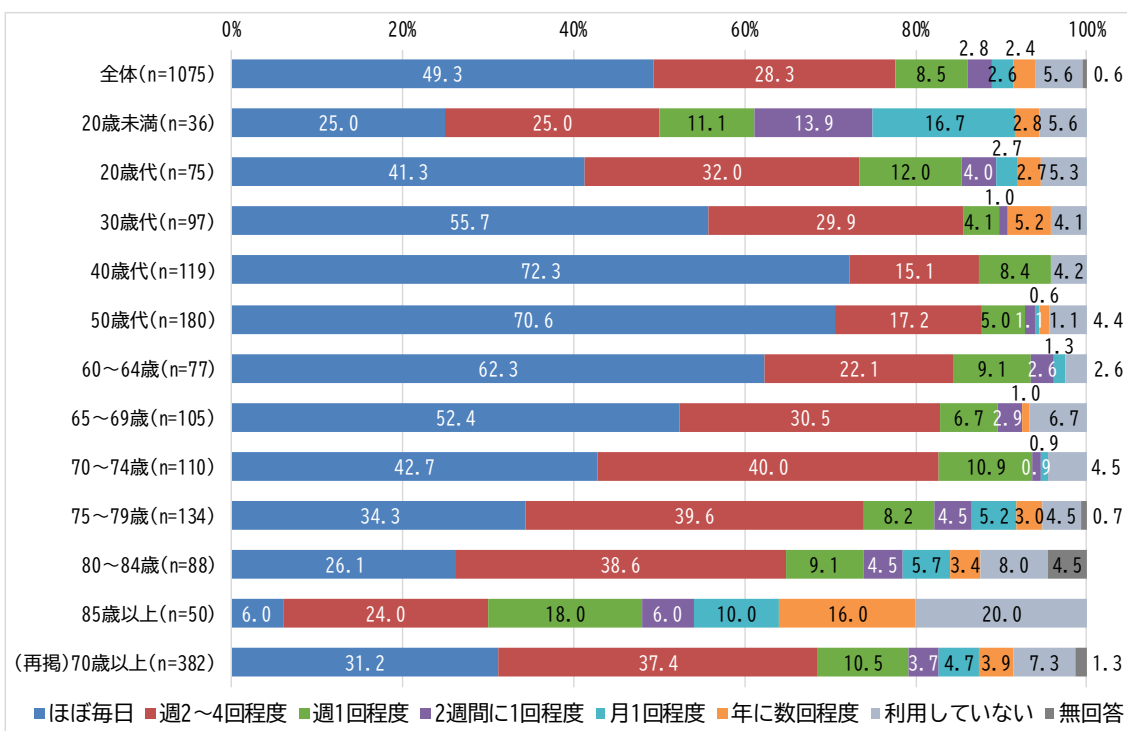
項目	内容
調査対象	15歳以上の市民を対象に無作為抽出
調査方法	配布・回収ともに郵送
調査時期	令和5年11月13日（月）～令和5年11月27日（月）
配布数	3,000票
回収数	1,075票
回収率	35.8%

(2) 調査結果の概要（抜粋）

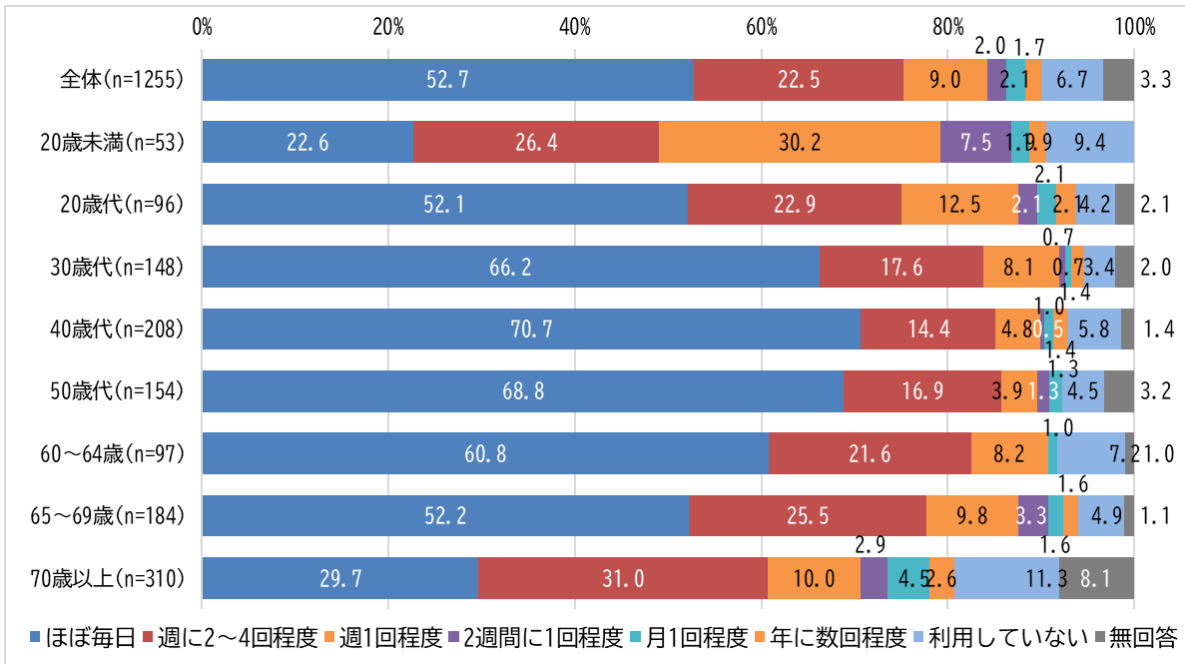
【問3】自動車の利用頻度

■自動車の利用頻度は、全体では「ほぼ毎日」が約49%と最も多く、次いで「週に2～4回程度」が約28%、「週に1回程度」が約9%の順となっています。

■H28年度調査結果と比較した場合、同様の傾向にありますが、「ほぼ毎日」の利用割合が約4ポイント減少しています。

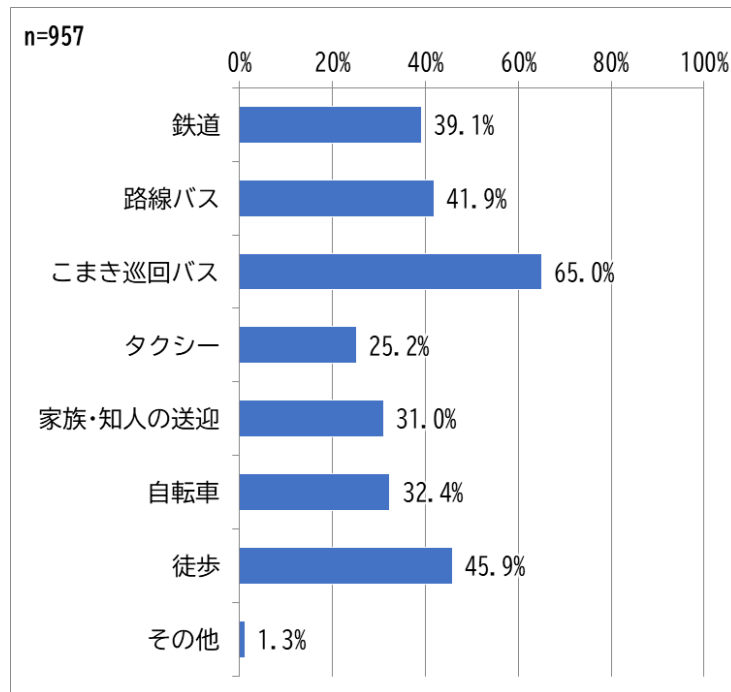


H28 年度調査【問9】



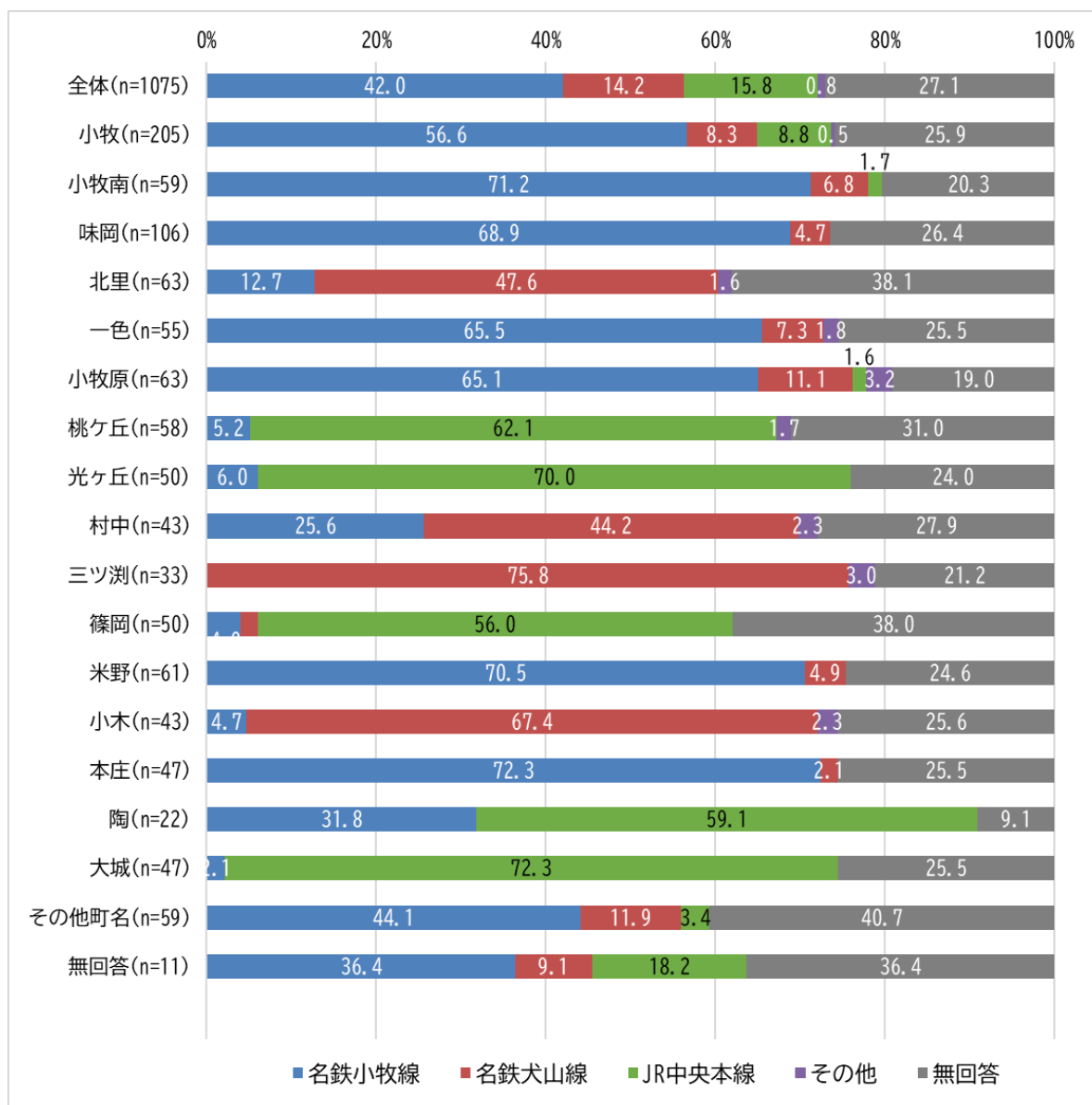
【問6】免許証返納後に利用したい（または利用している）移動手段

■免許証返納後に利用したい（または利用している）移動手段は、全体では「こまき巡回バス」が最も多く、次いで「徒歩」、「路線バス」の順となっています。



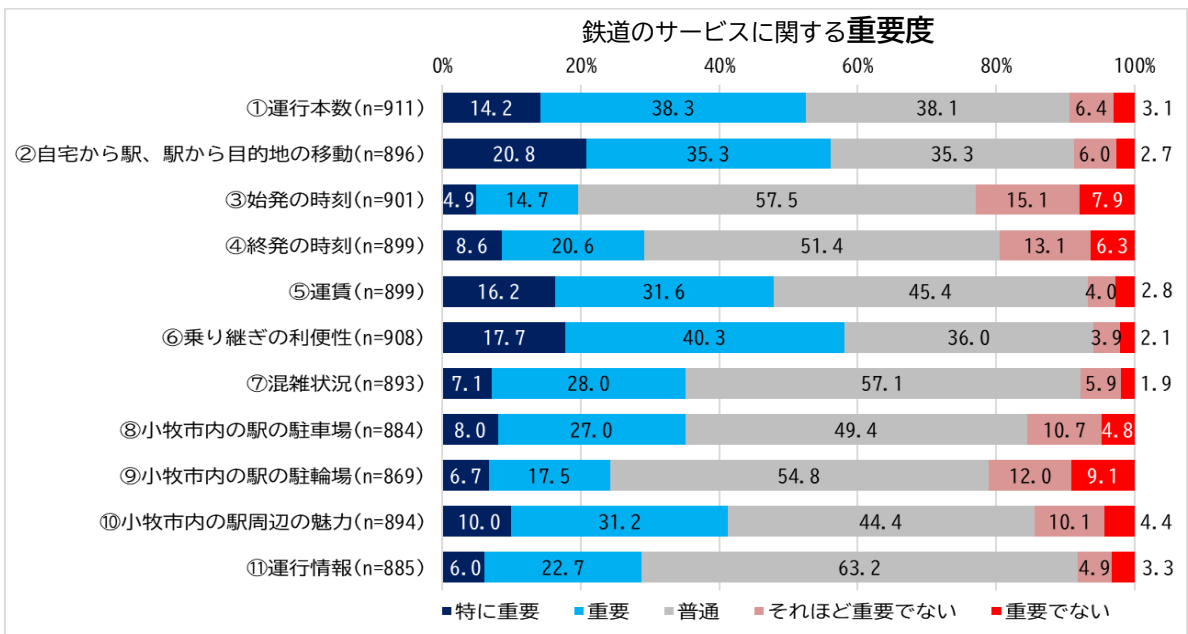
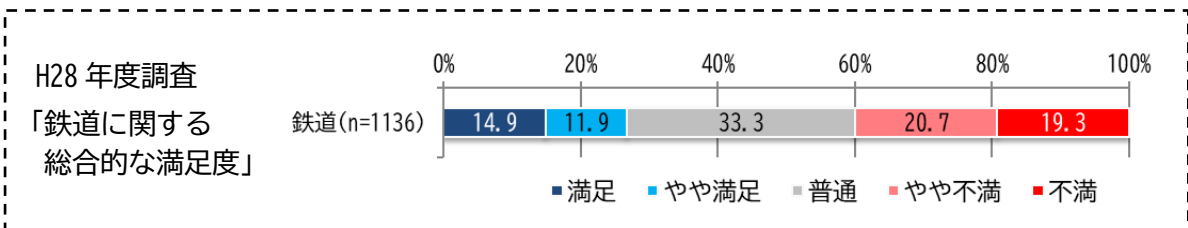
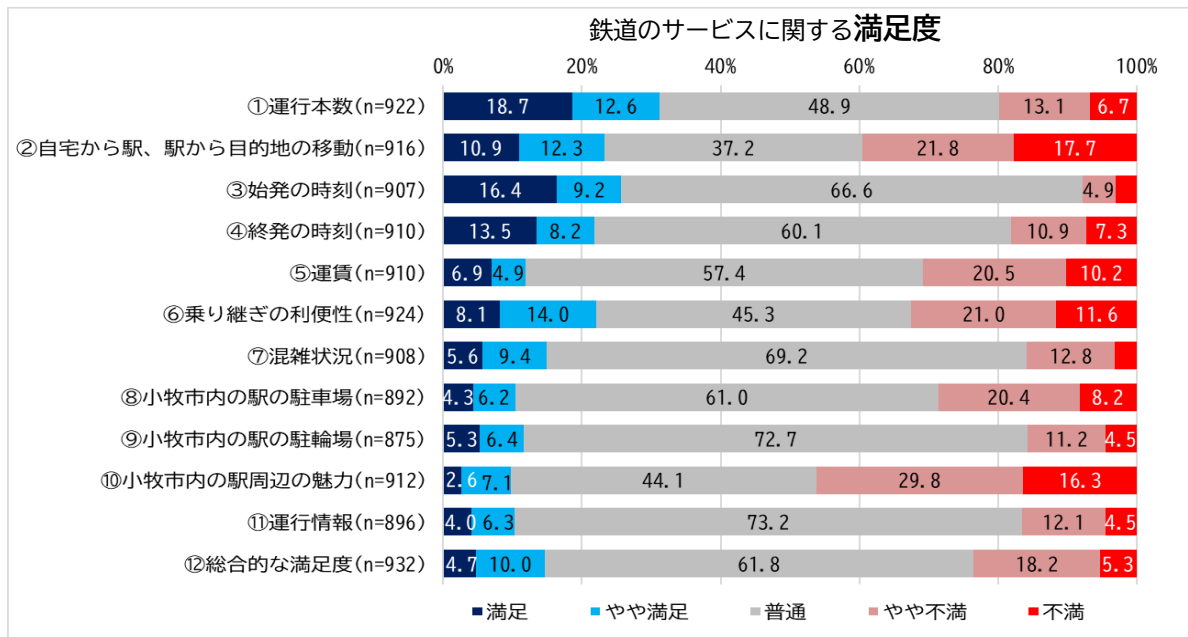
【問 11】最も利用する路線

- 最も利用する路線は、全体では「名鉄小牧線」が約 36%と最も多く、次いで「JR 中央本線」が約 18%、「名鉄犬山線」が約 9%の順となっています。
- 地域別にみた場合、小牧・小牧南・味岡・一色・小牧原・米野・本庄といった名鉄小牧線の駅を有する地域もしくは当該地域と隣接する地域では名鉄小牧線の利用が半数を超えています。
- 本市西部の北里・村中・三ツ渚・小木地域では名鉄犬山線の利用が約 4 割を超え、本市東部の桃ヶ丘・光ヶ丘・篠岡・陶・大城地域では JR 中央本線の利用が約 5 割を超えています。



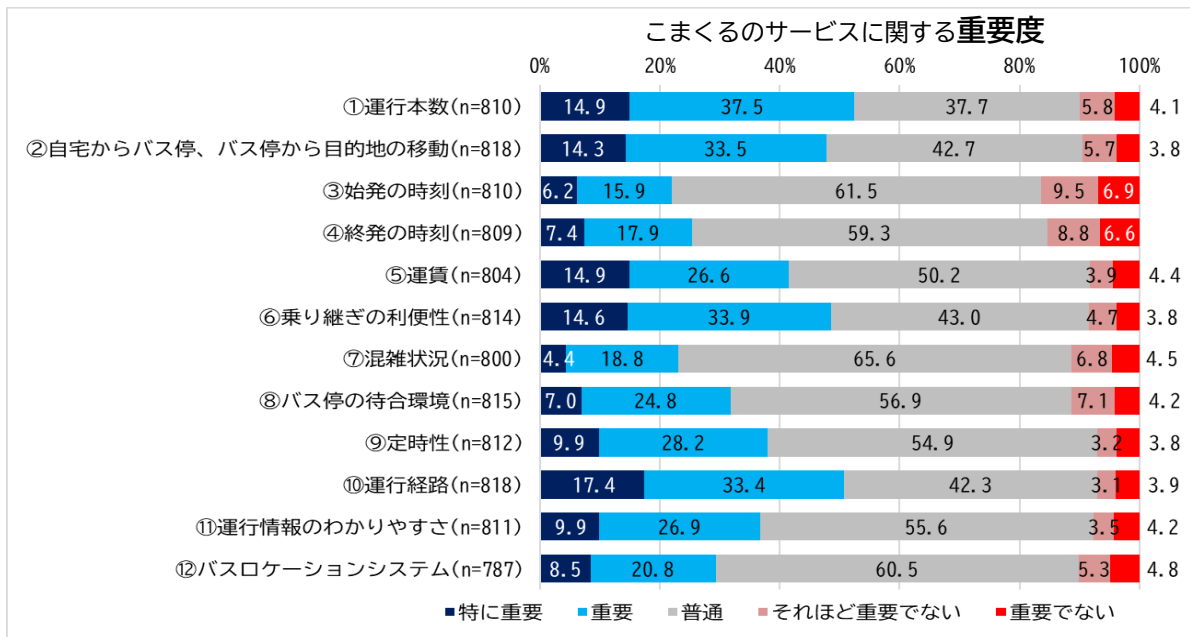
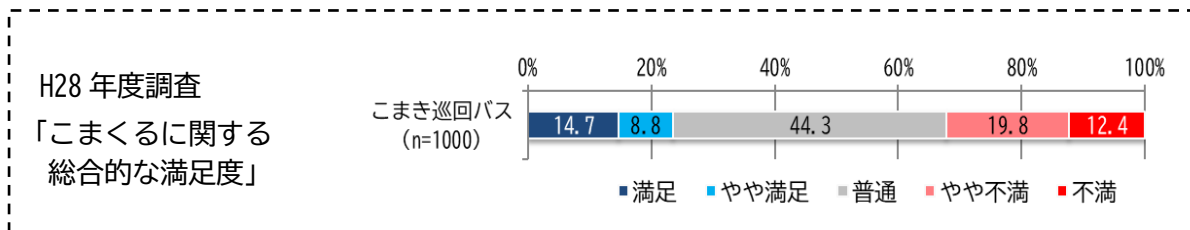
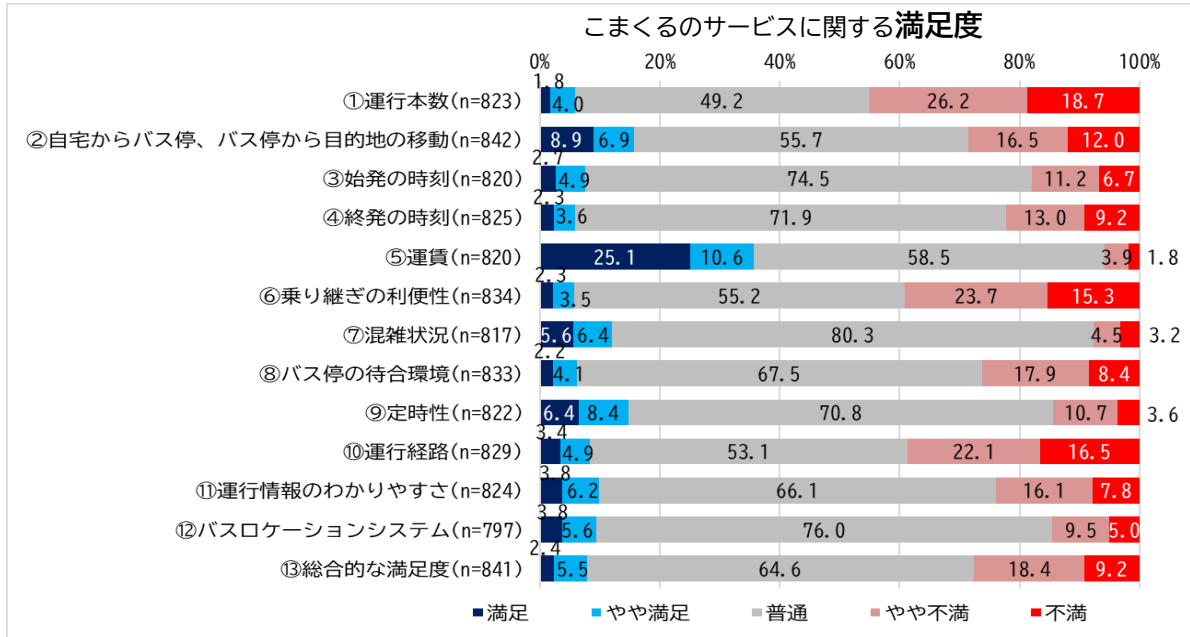
【問 12】 鉄道のサービスに関する満足度・重要度

- 総合的な満足度は、普通以上（満足+やや満足+普通）が約 77% となっており、H28 年度調査結果と比較した場合、普通以上（満足+やや満足+普通）の割合が約 17 ポイント増加しています。
- サービス項目別の満足度は、「①運行本数」、「③始発の時刻」、「②自宅から駅、駅から目的地の移動」の満足度（満足+やや満足）の割合が高い一方、「⑩小牧市内の駅周辺の魅力」、「②自宅から駅、駅から目的地の移動」、「⑥乗り継ぎの利便性」の不満足（不満+やや不満）の割合が高くなっています。
- サービス項目別の重要度は、「⑥乗り継ぎの利便性」、「②自宅から駅、駅から目的地の移動」、「①運行本数」の重要度（特に重要+重要）の割合が高くなっています。



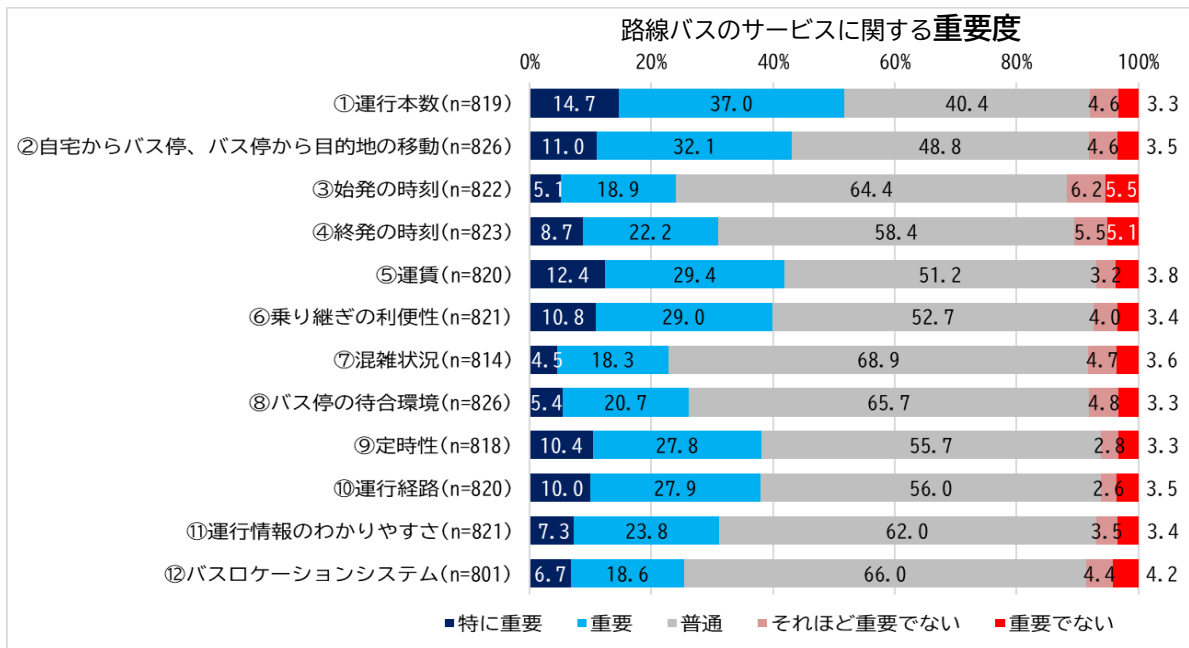
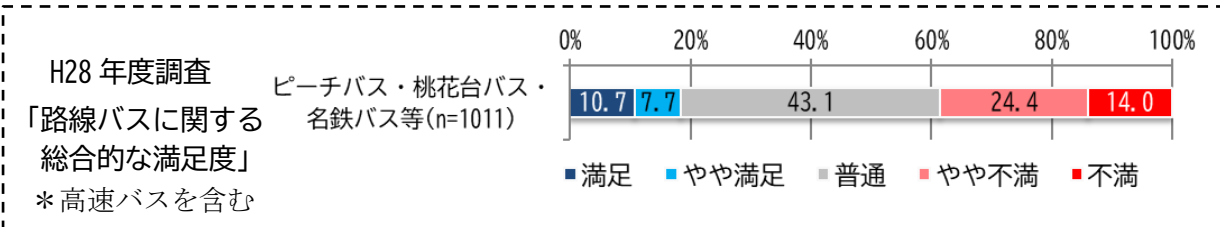
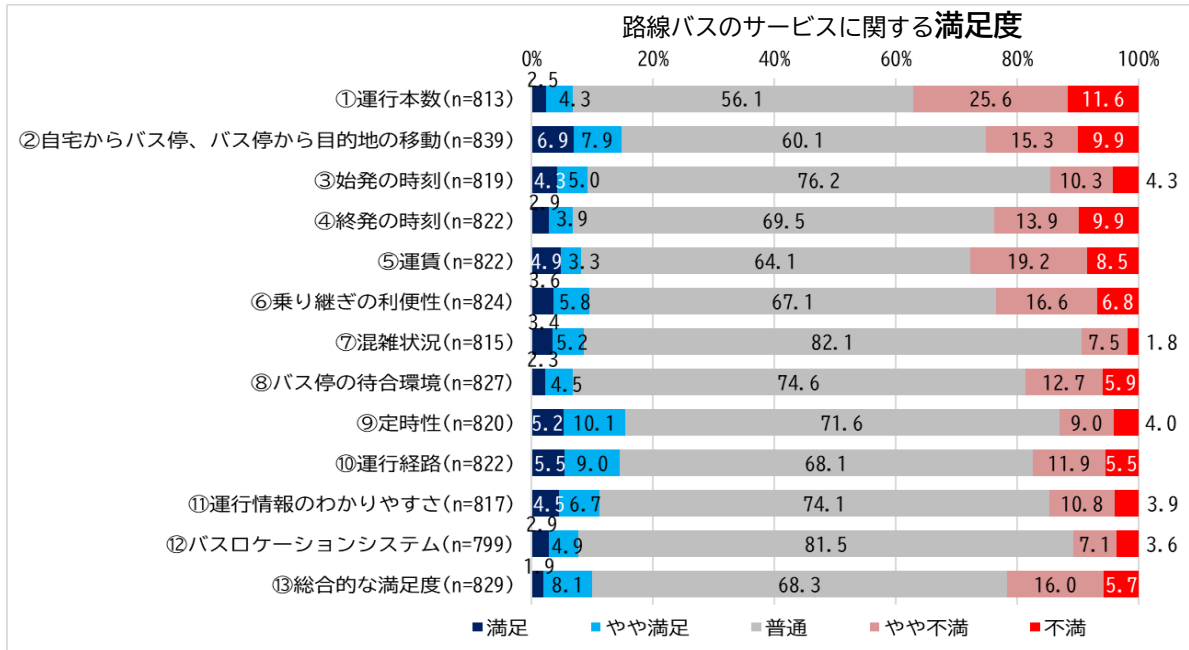
【問 15】こまくるのサービスに関する満足度・重要度

- 総合的な満足度は、普通以上（満足+やや満足+普通）が約 73%となっており、H28 年度調査結果と比較した場合、普通以上（満足+やや満足+普通）の割合が約 5 ポイント増加しています。
- サービス項目別の満足度は、「⑤運賃」、「②自宅からバス停、バス停から目的地の移動」、「⑨定時性」の満足度（満足+やや満足）の割合が高い一方、「①運行本数」、「⑥乗り継ぎの利便性」、「⑩運行経路」の不満足（不満+やや不満）の割合が高くなっています。
- サービス項目別の重要度は、「①運行本数」、「⑩運行経路」、「⑥乗り継ぎの利便性」の重要度（特に重要+重要）の割合が高くなっています。



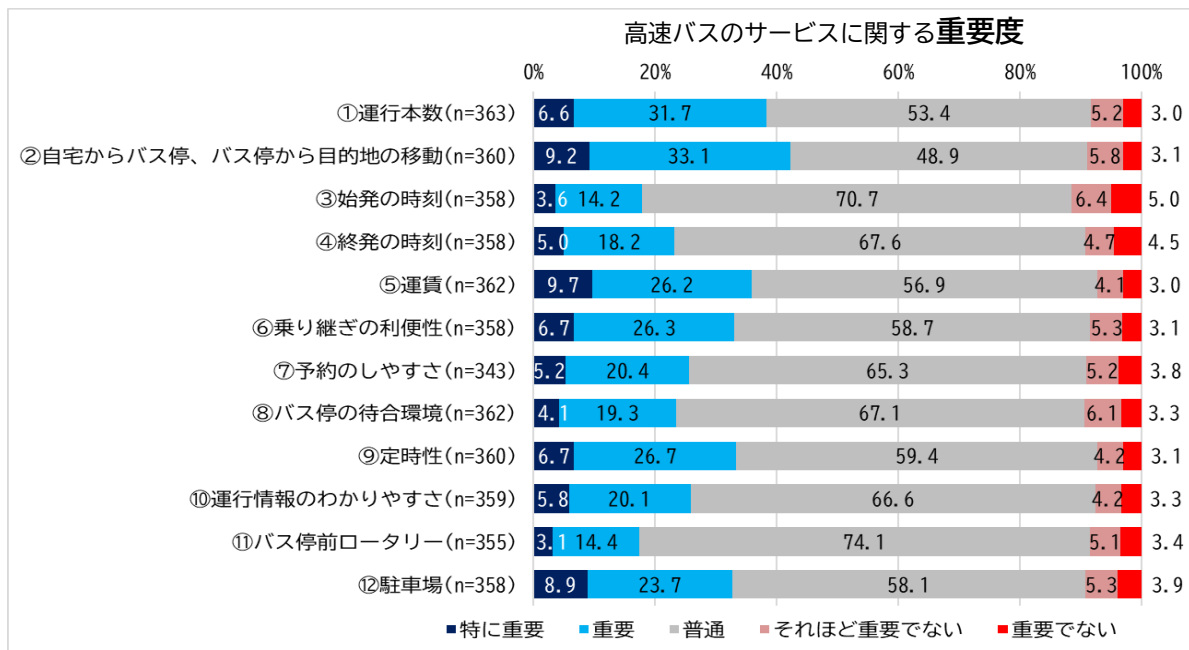
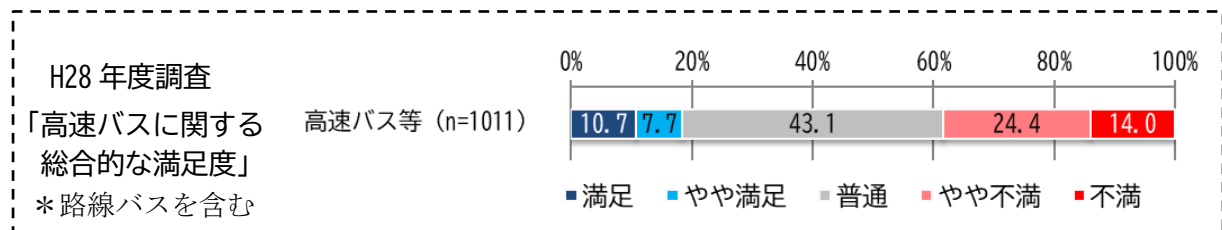
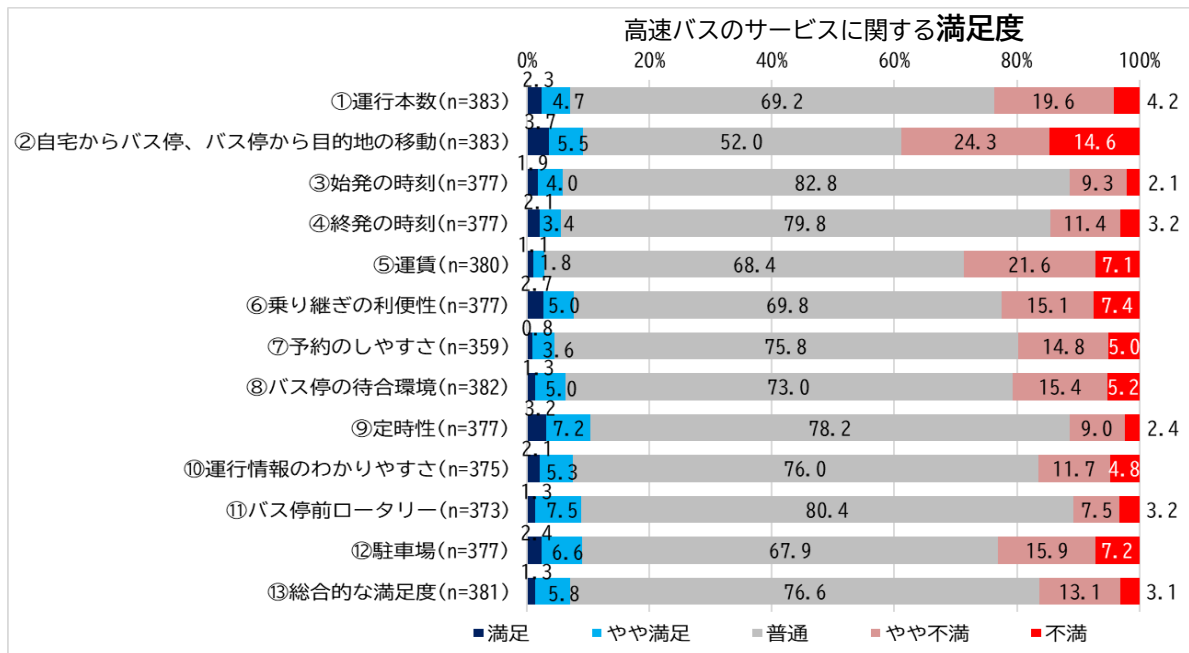
【問 19】路線バスのサービスに関する満足度・重要度

- 総合的な満足度は、普通以上（満足+やや満足+普通）が約 78%となっており、H28 年度調査結果と比較した場合、普通以上（満足+やや満足+普通）の割合が約 16 ポイント増加しています。
- サービス項目別の満足度は、「⑨定時性」、「②自宅からバス停、バス停から目的地の移動」、「⑩運行経路」の満足度（満足+やや満足）の割合が高い一方、「①運行本数」、「⑤運賃」、「②自宅からバス停、バス停から目的地の移動」の不満足（不満+やや不満）の割合が高くなっています。
- サービス項目別の重要度は、「①運行本数」、「②自宅からバス停、バス停から目的地の移動」、「⑤運賃」の重要度（特に重要+重要）の割合が高くなっています。



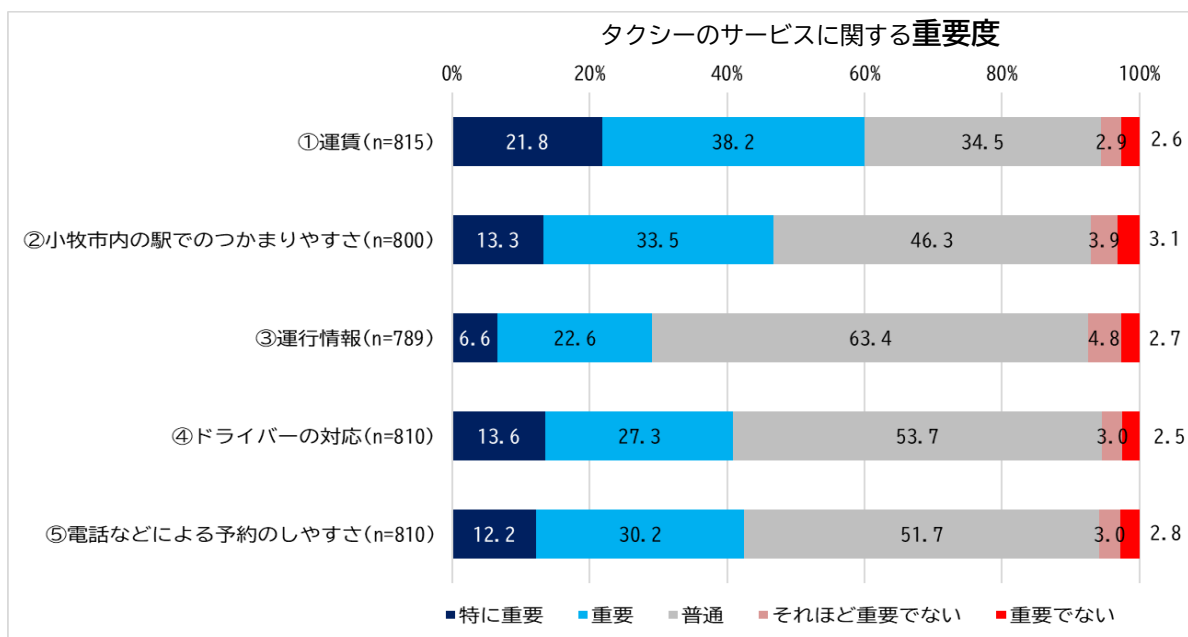
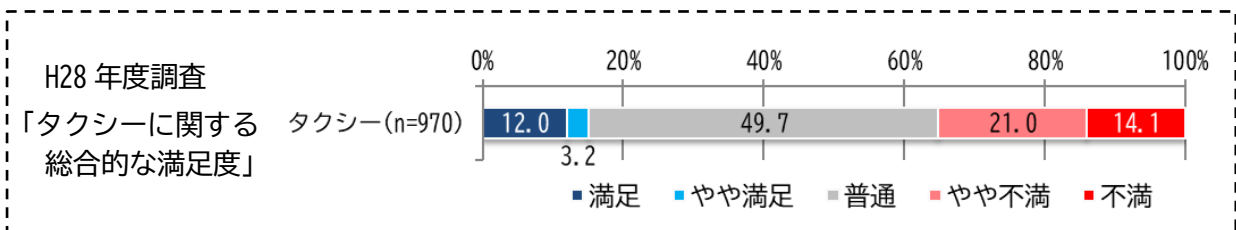
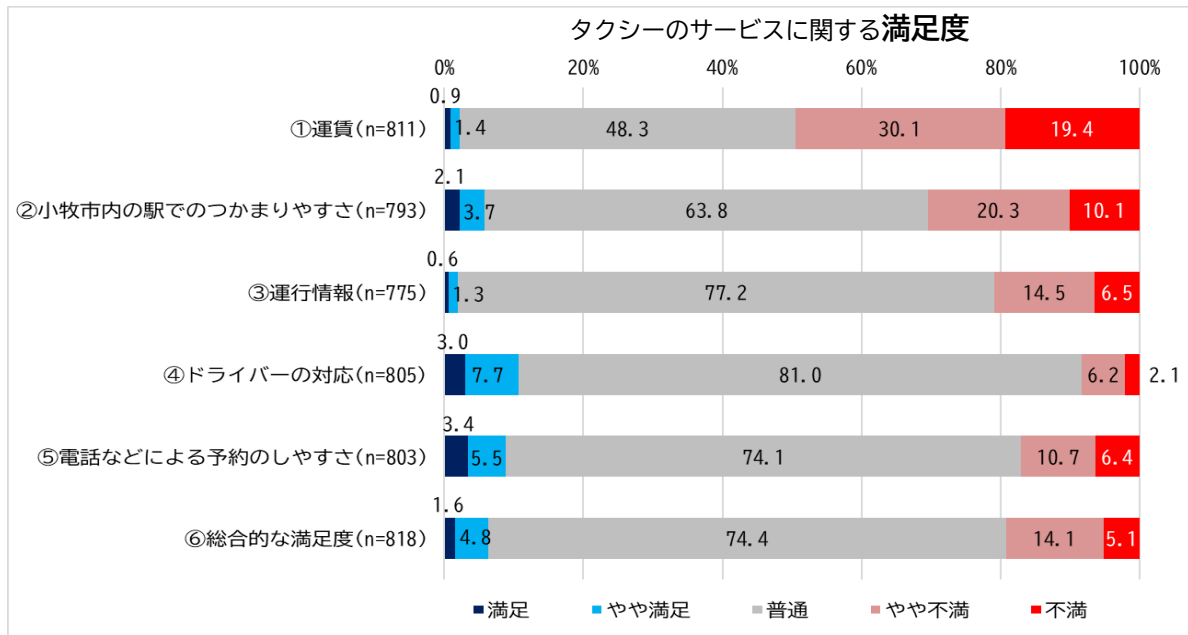
【問 21】 高速バスのサービスに関する満足度・重要度

- 総合的な満足度は、普通以上（満足+やや満足+普通）が約 84%となっており、H28 年度調査結果と比較した場合、普通以上（満足+やや満足+普通）の割合が約 22 ポイント増加しています。
- サービス項目別の満足度は、「⑨定時性」、「②自宅からバス停、バス停から目的地の移動」、「⑫駐車場」の満足度（満足+やや満足）の割合が高い一方、「②自宅からバス停、バス停から目的地の移動」、「⑤運賃」、「①運行本数」の不満足（不満+やや不満）の割合が高くなっています。
- サービス項目別の重要度は、「②自宅からバス停、バス停から目的地の移動」、「①運行本数」、「⑤運賃」の重要度（特に重要+重要）の割合が高くなっています。



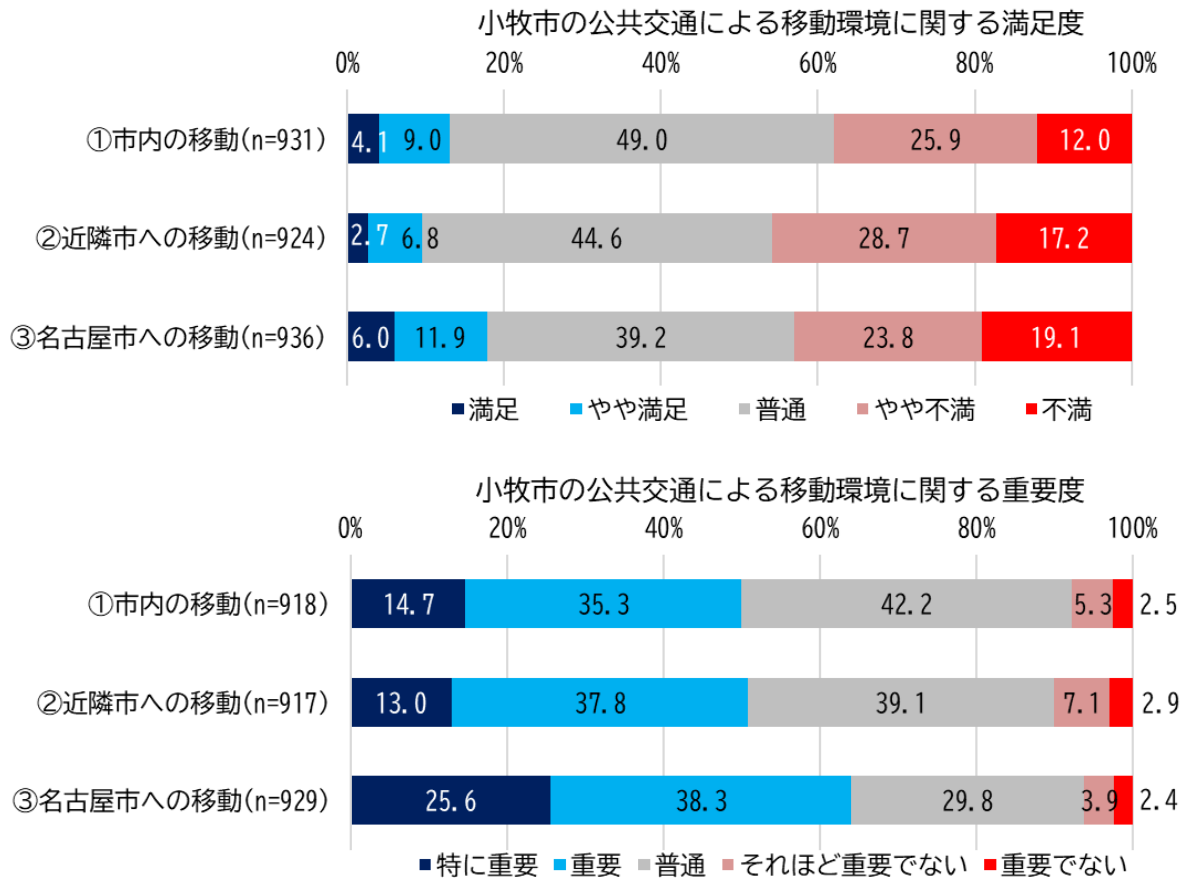
【問 24】 タクシーのサービスに関する満足度・重要度

- 総合的な満足度は、普通以上（満足+やや満足+普通）が約 81%となっており、H28 年度調査結果と比較した場合、普通以上（満足+やや満足+普通）の割合が約 16 ポイント増加しています。
- サービス項目別の満足度は、「④ドライバーの対応」の満足度（満足+やや満足）の割合が高い一方、「①運賃」、「②小牧市内の駅でのつかまりやすさ」の不満足（不満+やや不満）の割合が高くなっています。
- サービス項目別の重要度は、「①運賃」、「②小牧市内の駅でのつかまりやすさ」の重要度（特に重要+重要）の割合が高くなっています。



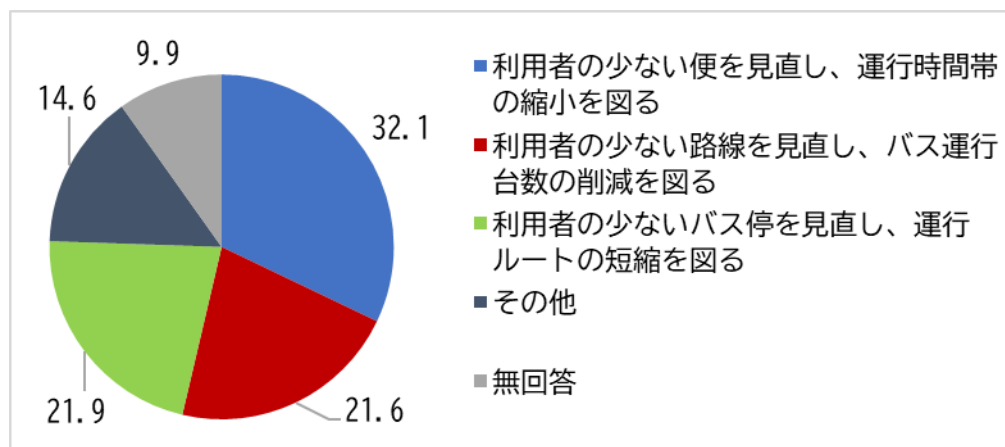
【問 25】小牧市の公共交通（鉄道・バス・タクシー）による移動環境に関する満足度と重要度

- いずれの項目とも満足度は普通以上（満足+やや満足+普通）が半数を超えています。
- 重要度で見た場合、「①市内の移動」よりも「③名古屋市への移動」の重要度が高くなっています。



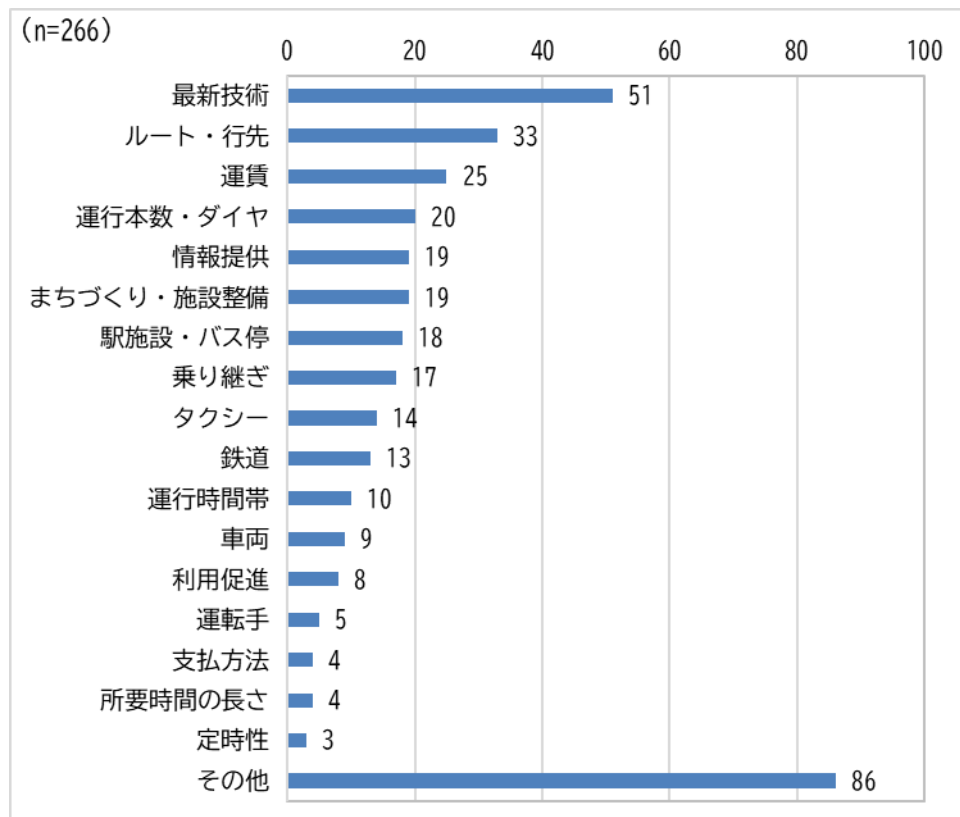
【問 26】こまくるの効率性を高めるための施策

- 「利用者の少ない便を見直し、運行時間帯の縮小を図る」が約 32%と最も多く、次いで「利用者の少ないバス停を見直し、運行ルートの短縮を図る」、「利用者の少ない路線を見直し、バス運行台数の削減を図る」の順となっています。



【問 34】公共交通に対する考えやアイデア

■公共交通に対する考えやアイデア（自由意見）は、「最新技術」が51件と最も多く、次いで「ルート・行先」が33件、「運賃」が25件の順となっています。



2) バス乗降調査

(1) 調査の概要

①調査の目的

本調査は、利用者ニーズとバスサービス（ルート）の検証などによるバス交通の課題などを把握する目的として実施しました。

主な内容は、回答者属性（性別、年齢、居住地等）、バス利用状況（バス停間 OD、目的、頻度、乗継、利用開始時期等）などです。

②調査対象及び調査方法

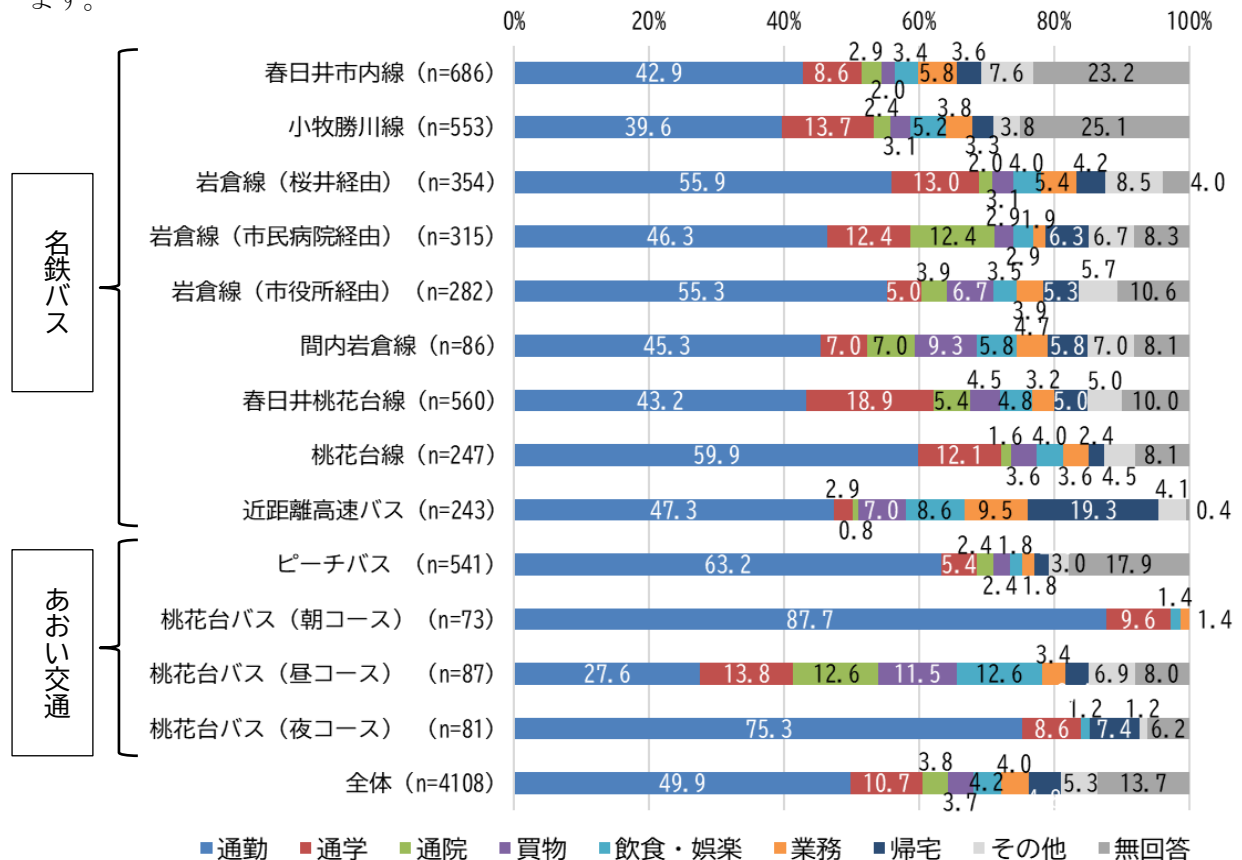
項目	内容
調査対象	小牧市内路線バス（抽出便）利用者
調査方法	配布：バス車内で調査員による手渡し、回収：バス車内で調査員による回収
調査時期	令和5年11月17日（金）、20日（月）、22日（水）、27日（月）の4日間
調査数	名鉄バス 3,326 人、あおい交通 782 人、合計 4,108 人

(2) 調査結果の概要（抜粋）

【設問④】利用目的

■全体では「通勤」が約 50%と最も多く、次いで「通学」が約 11%の順となっています。

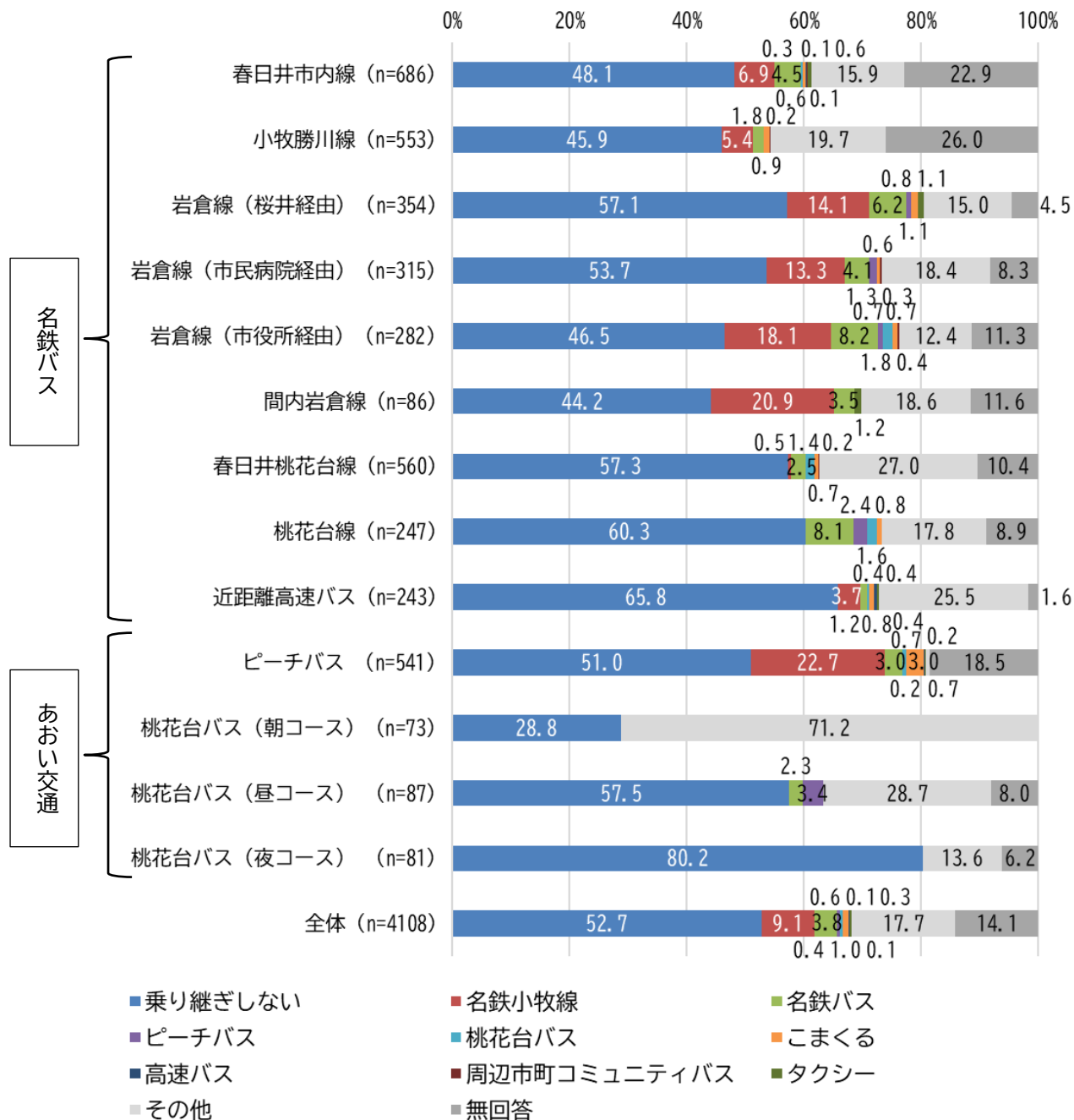
■路線別にみると、あおい交通桃花台バス（朝コース）は「通勤」、名鉄バス春日井桃花台線は「通学」、名鉄バス岩倉線（市民病院経由）は「通院」、名鉄バス間内岩倉線は「買物」、あおい交通桃花台バス（昼コース）は「飲食・娯楽」目的で他路線と比較して利用割合が多くなっています。



【設問⑤】次に乗り継ぐ路線

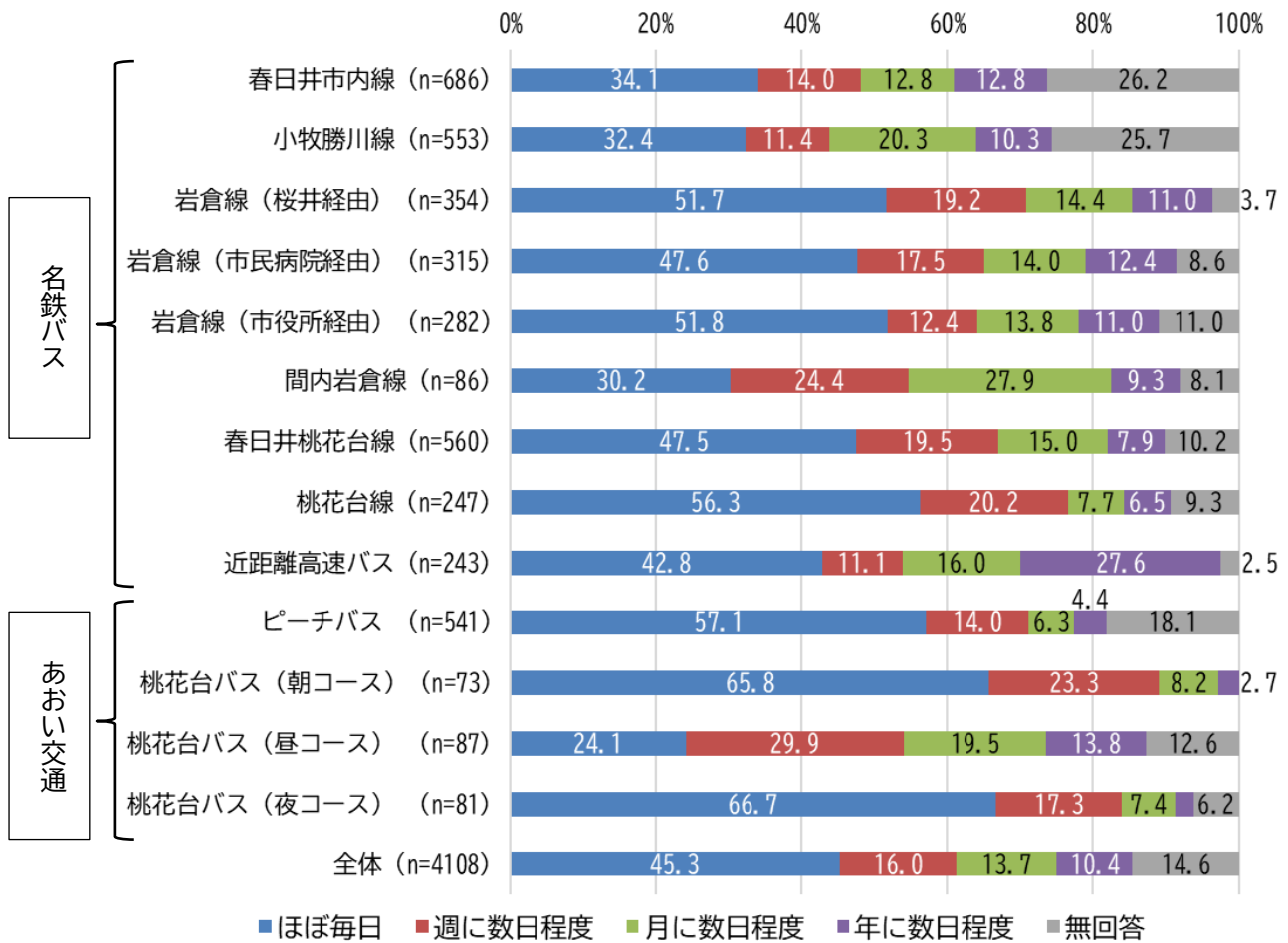
■全体では「乗り継ぎしない」が約53%と半数を占めています。

■路線別にみると、名鉄バス岩倉線各系統や名鉄バス間内岩倉線は「名鉄小牧線」や「その他（名鉄犬山線等）」への乗り継ぎ、名鉄バス春日井桃花台線やあおい交通桃花台バスは「その他（JR中央本線等）」への乗り継ぎ割合が多くなっています。



【設問⑥】 利用頻度

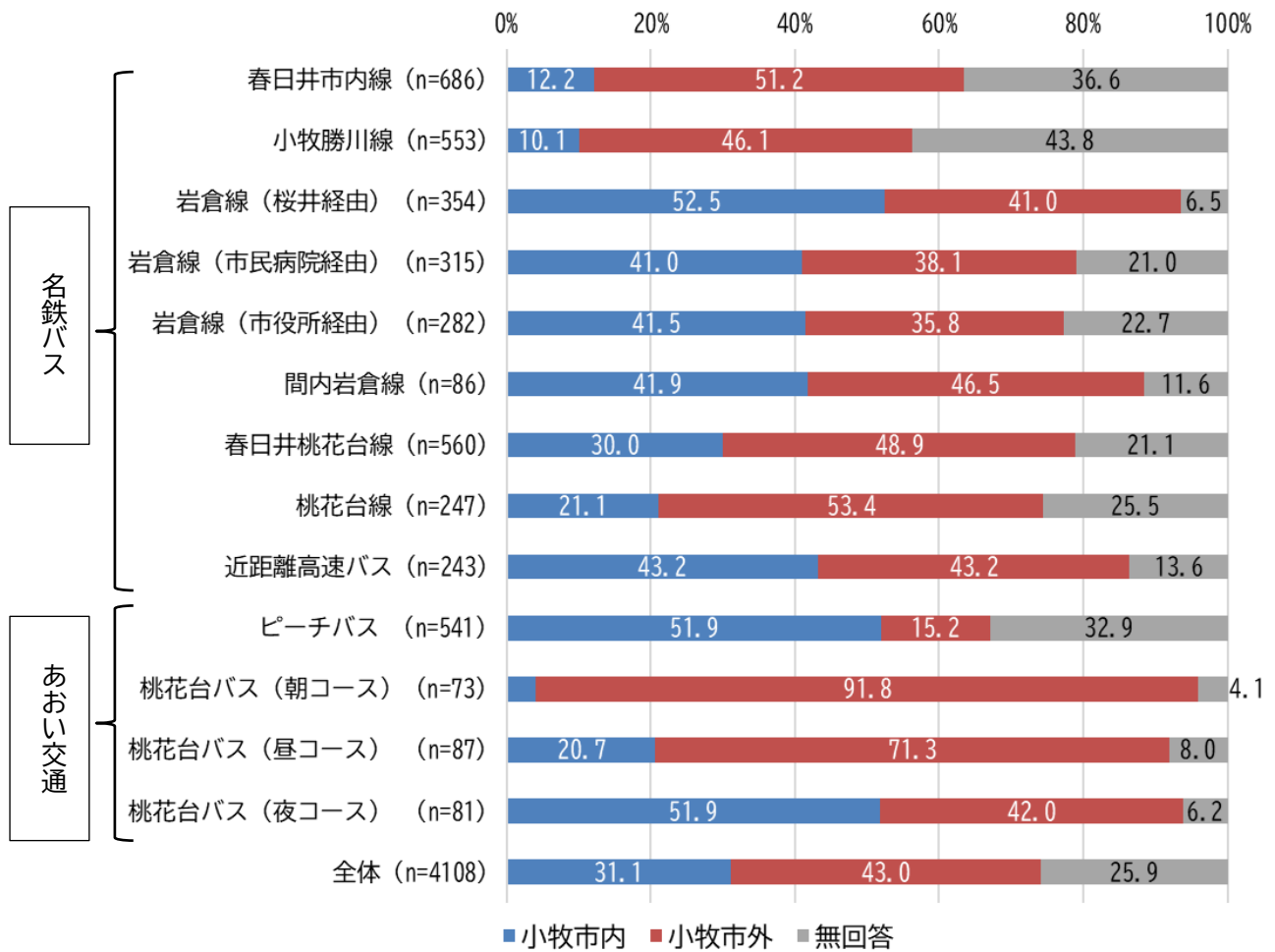
- 全体では「ほぼ毎日」が約45%と最も多く、次いで「週に数日程度」が約16%となっています。
- 路線別にみると、あおい交通桃花台バス（朝・夜コース）やあおい交通ピーチバスは「ほぼ毎日」利用する割合が高く、名鉄バス間内岩倉線では「月に数日程度」の利用割合が高くなっています。



【設問⑧】 最終目的地

■全体では「小牧市外」が約 43%、「小牧市内」が約 31%と、「小牧市外」の割合が多くなっています。

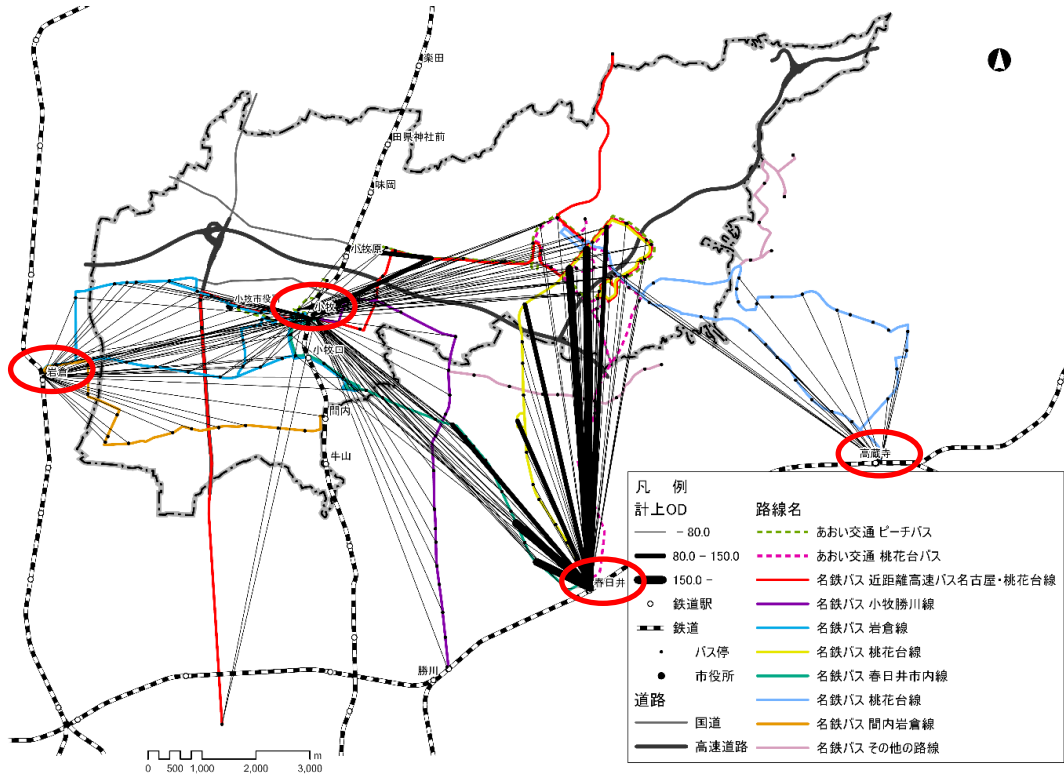
■路線別にみると、名鉄バス岩倉線各系統やあおい交通ピーチバス、あおい交通桃花台線（夜コース）では、全体の傾向と異なり、「小牧市内」の利用割合が多くなっています。



【設問⑨】乗車・降車バス停

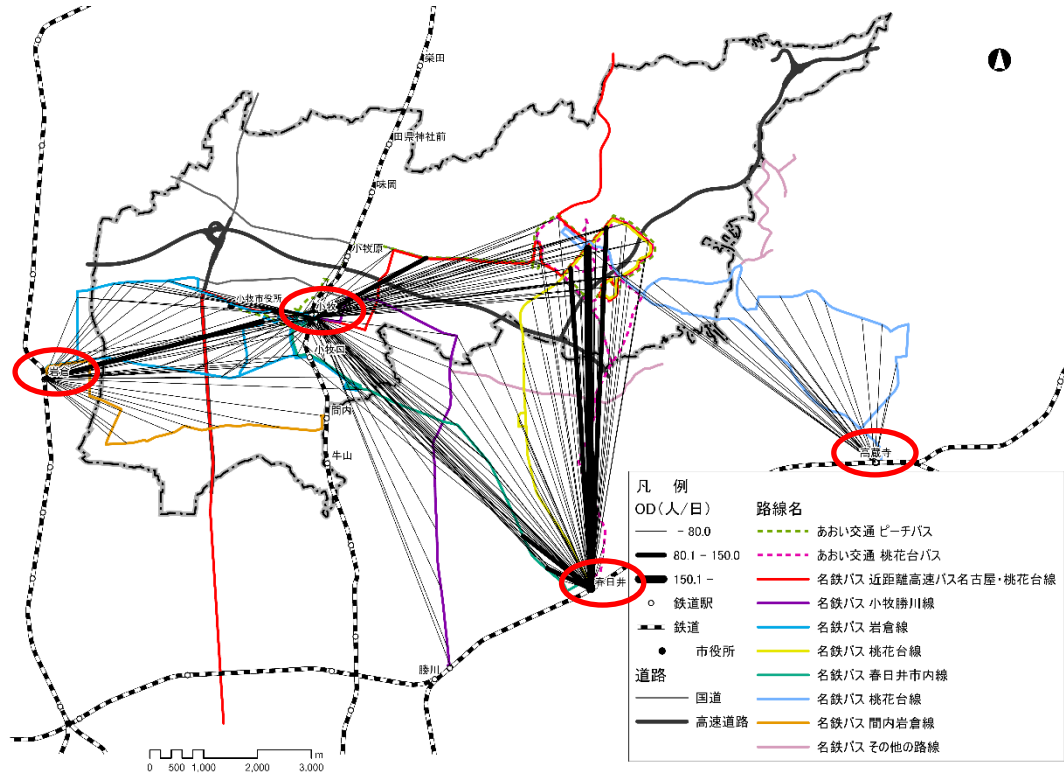
■H28 年度調査結果と同様に、小牧市内と JR 春日井駅や岩倉駅を結ぶ移動が多く見られます。

図 主要鉄道駅を発着する路線バスOD (R5 年度調査)



*R5 年度調査はサンプリング調査であり、抽出便割合より拡大係数を乗じた想定利用者

図 主要鉄道駅を発着する路線バスOD (H28 年度調査)



*H28 年度調査は全数調査結果

3) バス利用者アンケート調査

(1) 調査の概要

①調査の目的

本調査は、こまくる、路線バス（ピーチバス、桃花台バス、名鉄バス、近距離高速バス）及び桃花台高速バスの利用者から見た公共交通の課題を抽出するとともに、現計画で定めた目標の達成度評価や計画の方向性、こまくる再編に対する意見などを把握することを目的として実施しました。

主な内容は、回答者属性（性別、年齢、居住地等）、バス利用状況（目的、目的地、頻度、乗継ぎ等）、サービス項目別満足度、重要度、こまくるの今後の方向性、市内公共交通の維持・活性化の考えなどです。

②調査対象及び調査方法

<こまくる>

項目	内容
調査対象	対象バス停（10箇所）からこまき巡回バスに乗車した利用者
調査方法	配布：対象バス停で調査員による手渡し、回収：郵送
調査時期	令和5年11月12日(日)、13日(月)
配布数	1,133票
回収数	499票
回収率	44.0%

<路線バス>

項目	内容
調査対象	小牧市内を運行する路線バス利用者
調査方法	配布：バス車内で調査員による手渡し 回収：郵送
調査時期	令和5年11月17日(金)、20日(月)、22日(水)、27日(月)
配布数	2,417票
回収数	654票
回収率	27.1%

<桃花台高速バス>

項目	内容
調査対象	中央道桃花台バス停から高速バスに乗車した利用者
調査方法	配布：中央道桃花台バス停で調査員による手渡し、回収：郵送
調査時期	令和5年11月13日(月)
配布数	111票
回収数	62票
回収率	55.9%

(2) 調査結果の概要 (抜粋)

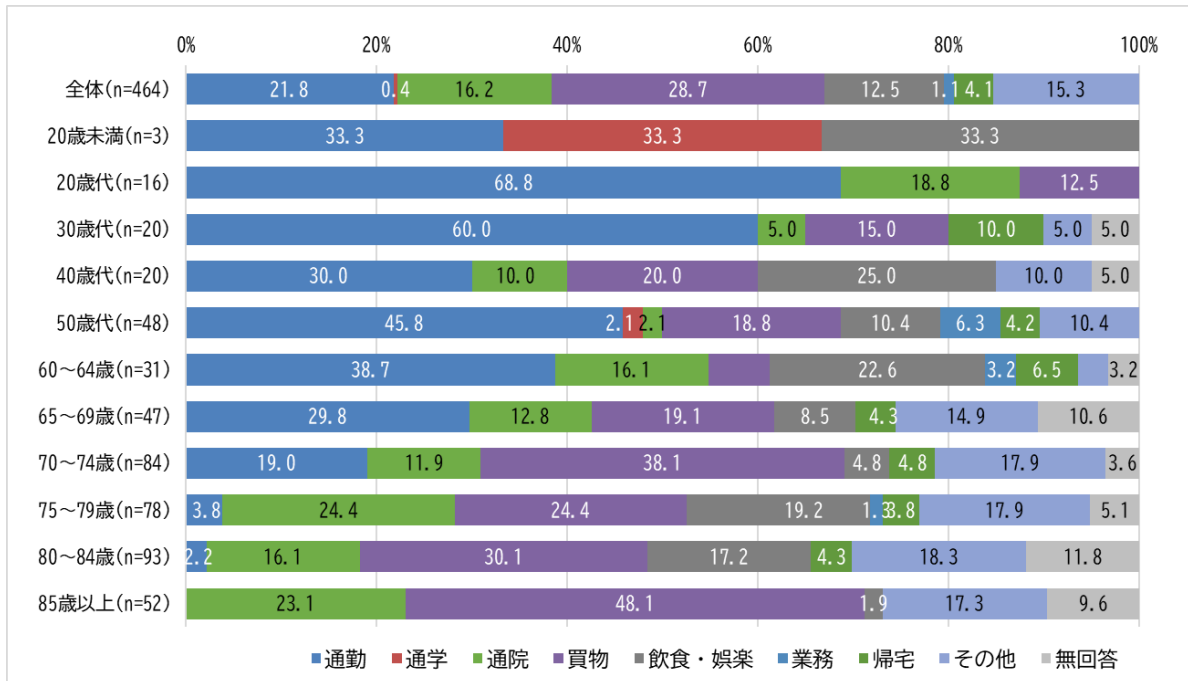
<こまくる>

【問4⑦】 利用目的

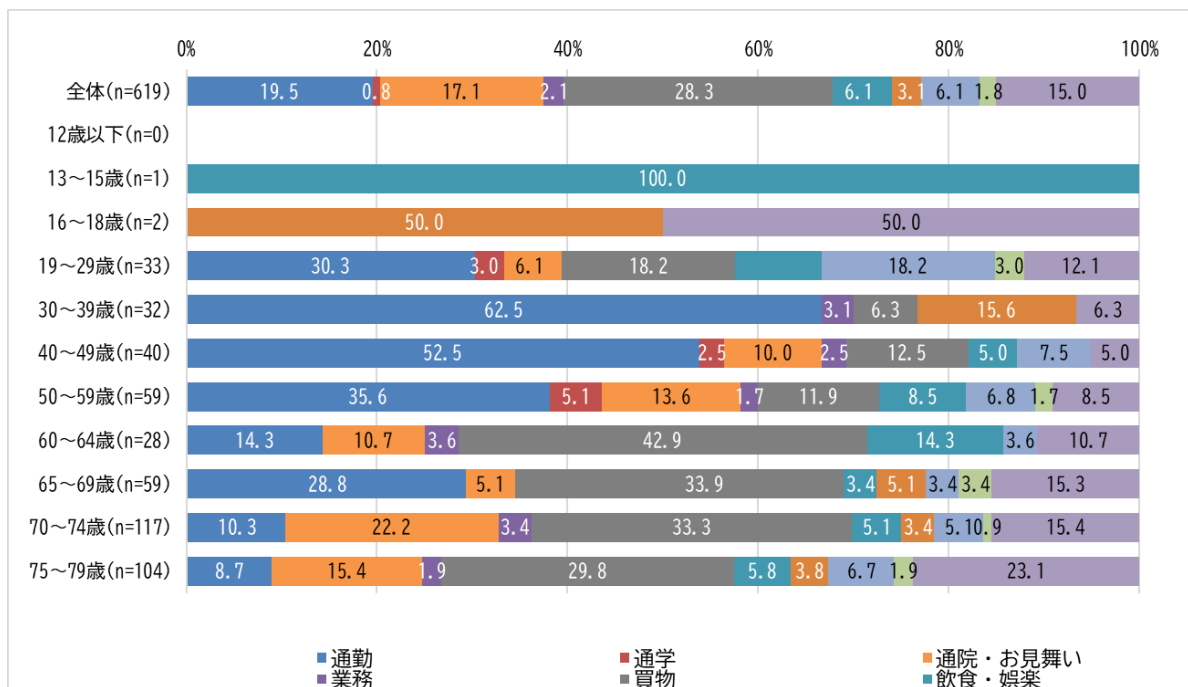
■全体では、「買物」が約29%と最も多く、次いで、「通勤」が約22%、「通院」が約16%の順となっています。

■R3年度調査結果と比較した場合、「買物」が約23%、「通勤」が約20%、「通院」が約17%と概ね同様な傾向にあります。

*年齢階層別の回答数が少ないため、構成比の取り扱いには注意が必要です。



R3年度調査【問5】

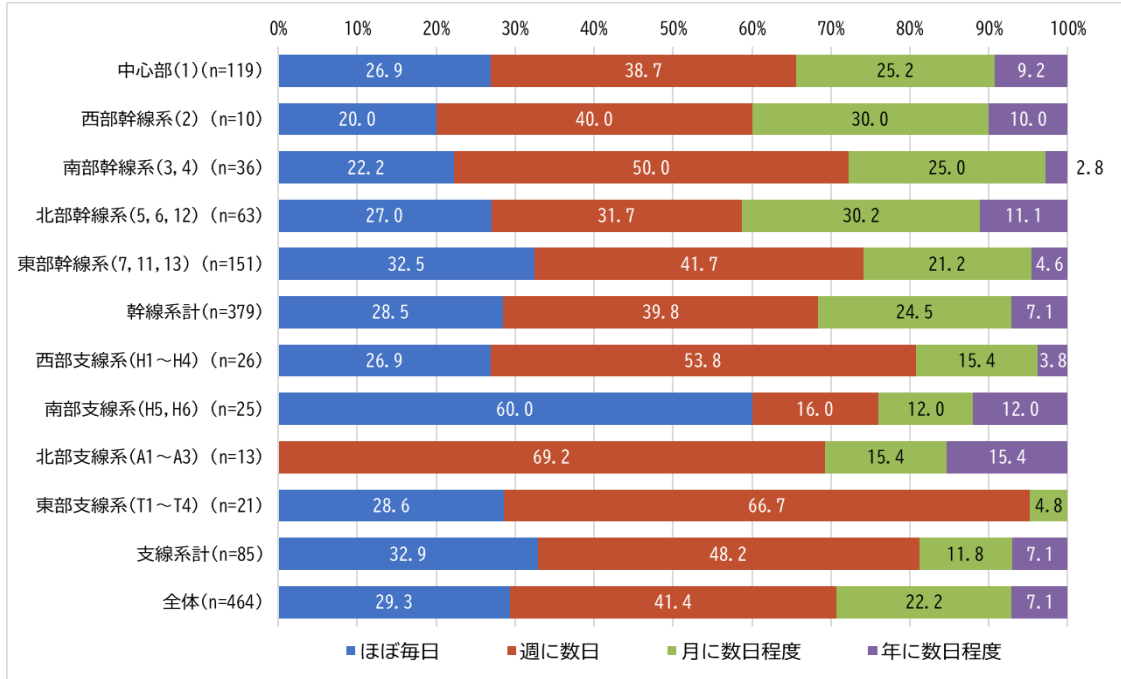


【問4⑦】 利用頻度

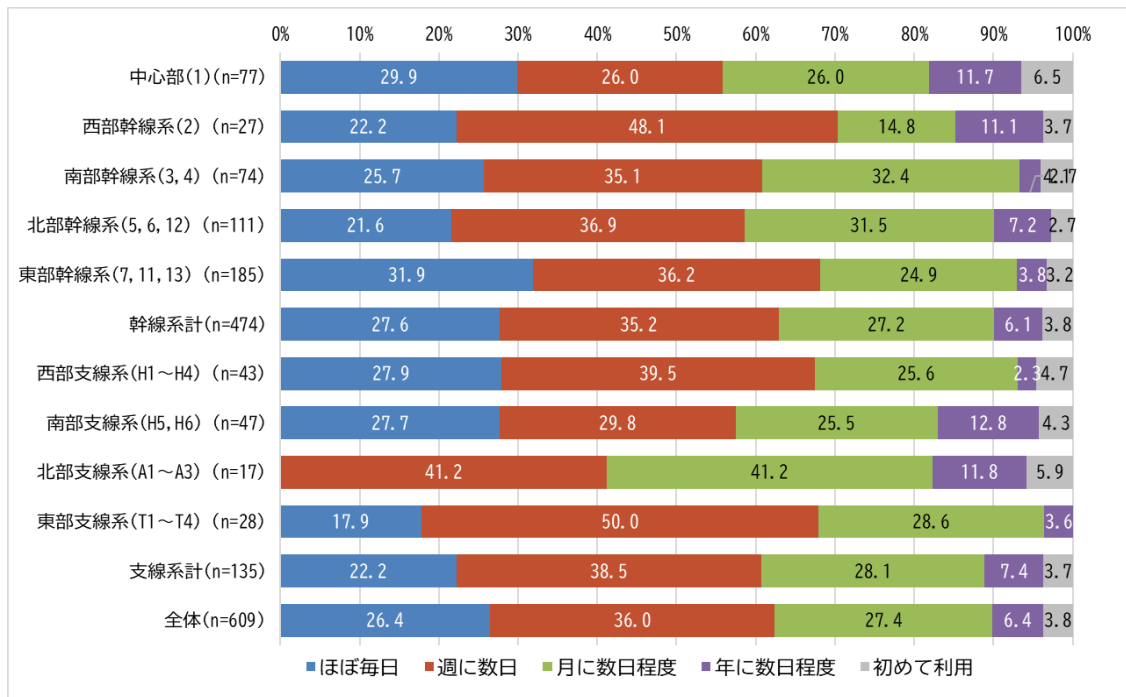
■全体では、「週に数日」が約41%と最も多く、次いで、「ほぼ毎日」が約29%、「月に数日程度」が約22%の順となっています。

■R3年度調査結果では、「週に数日」が約36%と最も多く、次いで、「月に数日程度」が約27%、「ほぼ毎日」が約26%の順となっており、利用頻度の高い「週に数日以上」の利用割合が約8ポイント増加しています。

*西部・南部・北部の幹線系及び支線系は回答数が少ないため、構成比の取り扱いには注意が必要です。



R3年度調査【問6】

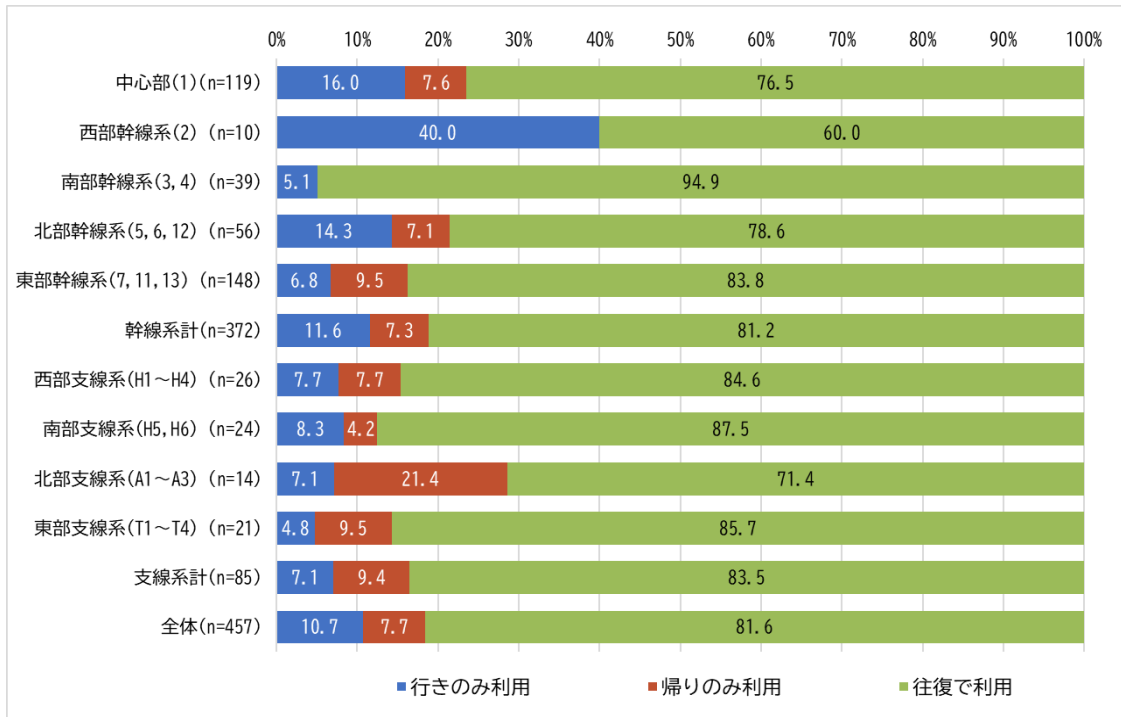


【問4⑧】往復利用の有無

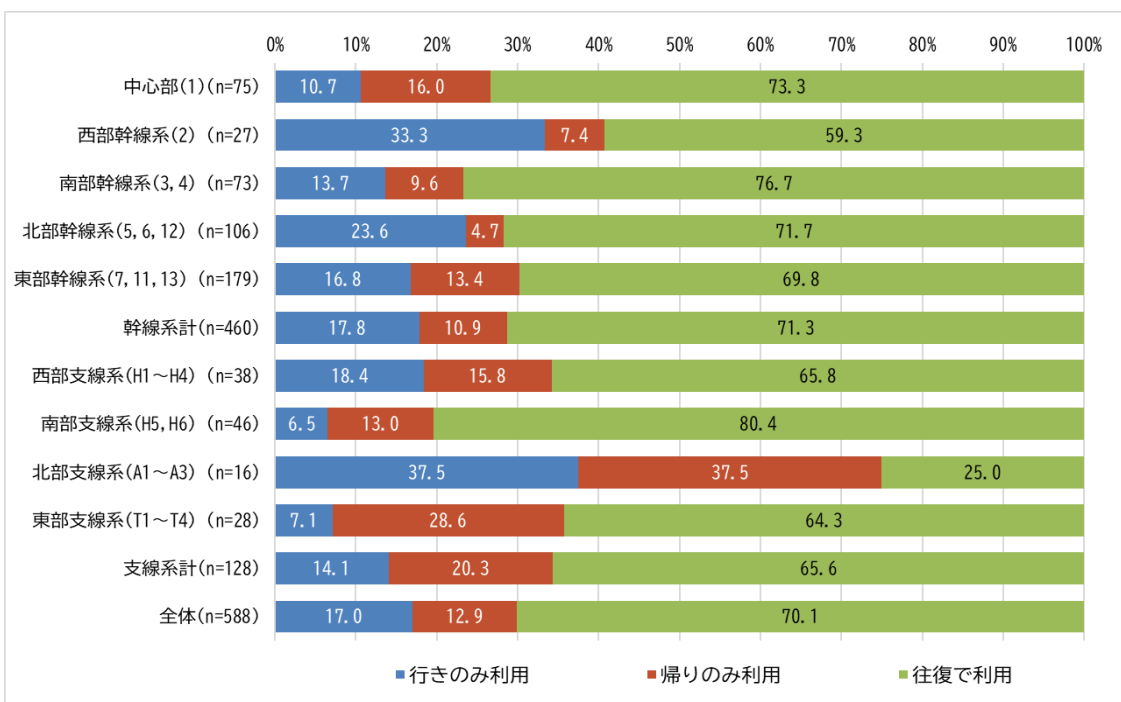
■全体では、「往復で利用」が約82%と最も多く、次いで、「行きのみ利用」が約11%、「帰りのみ利用」が約8%の順となっています。

■R3年度調査結果では、「往復で利用」が約70%と最も多く、次いで、「行きのみ利用」が約17%、「帰りのみ利用」が約13%の順となっており、R5年度調査では「往復で利用」の割合が約12ポイント増加しています。

*西部・南部・北部の幹線系及び支線系は回答数が少ないため、構成比の取り扱いには注意が必要です。

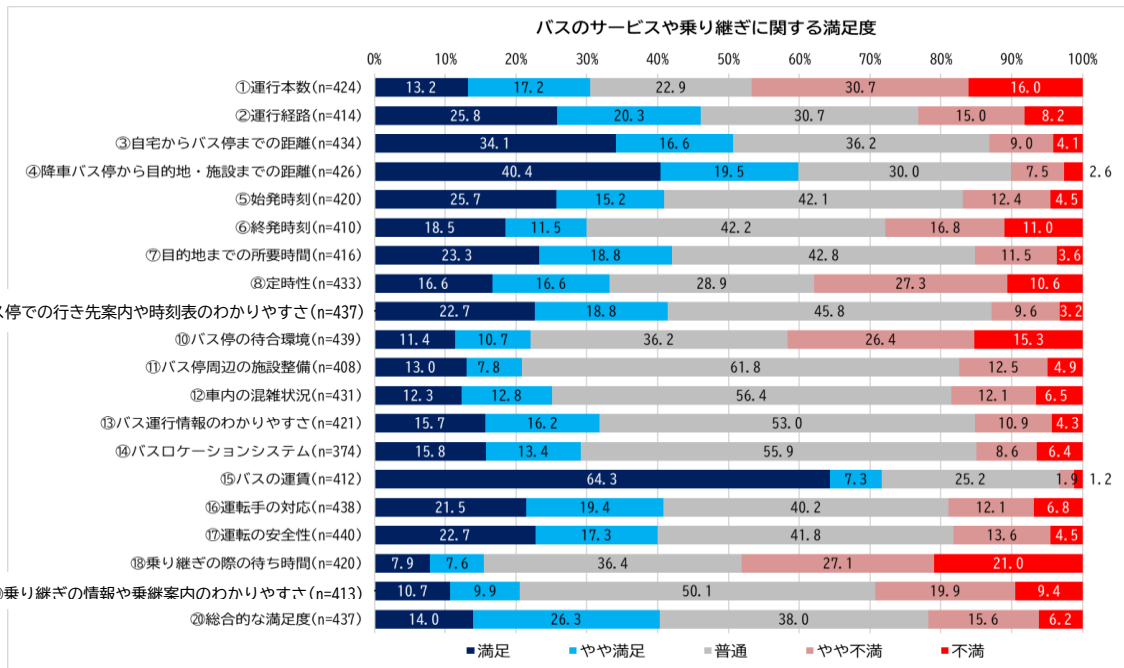


R3年度調査【問6】

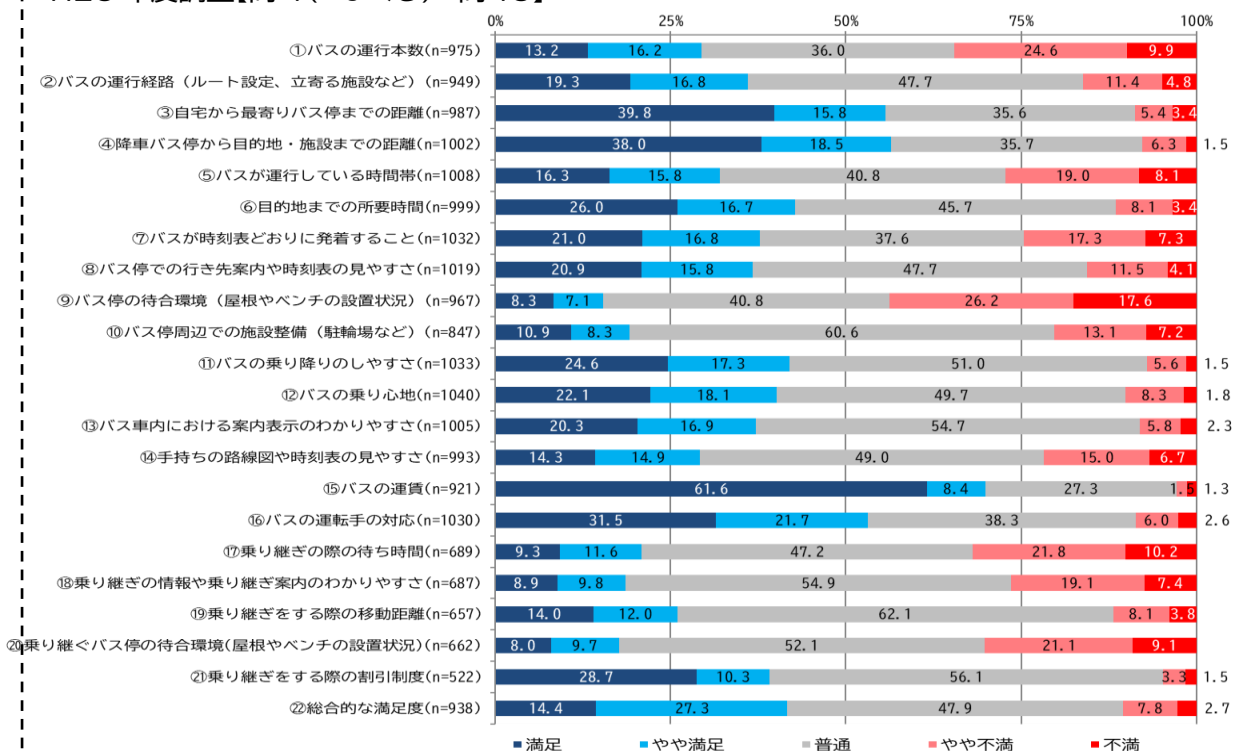


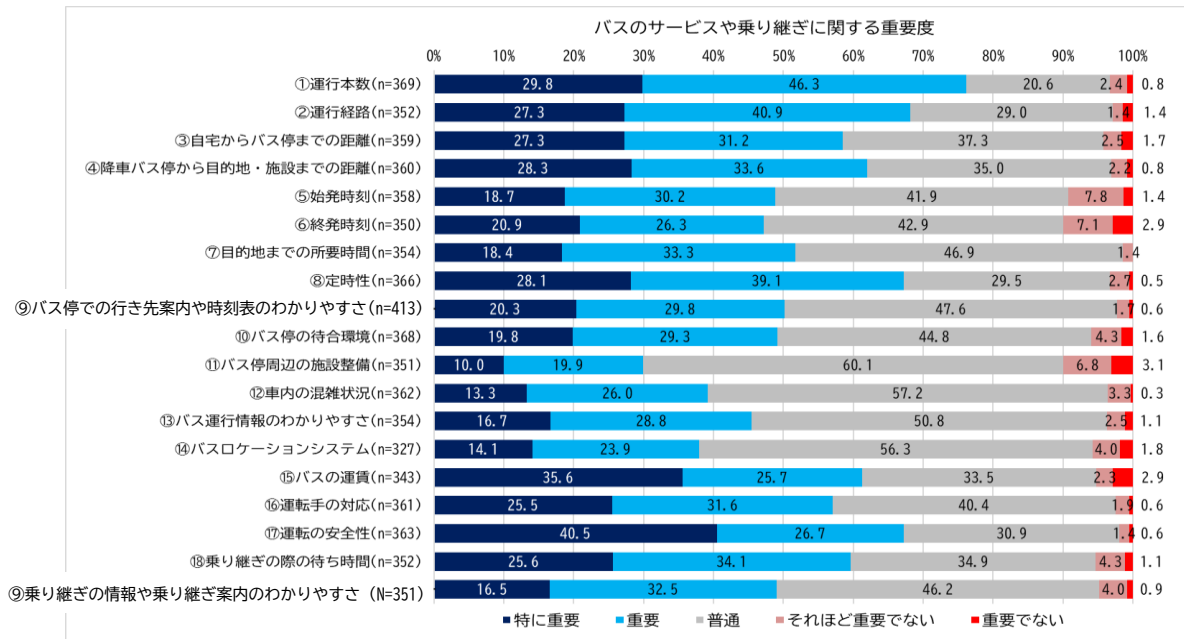
【問6】バスのサービスや乗り継ぎに関する満足度と重要度

- 総合的な満足度は、普通以上（満足+やや満足+普通）が約78%となっており、H28年度調査結果と比較して普通以上（満足+やや満足+普通）が約12ポイント減少しています。
- サービス項目別にみると、「⑮バスの運賃」、「④降車バス停から目的地・施設までの距離」、「③自宅からバス停までの距離」の満足度（満足+やや満足）の割合が高い一方、「⑱乗り継ぎの際の待ち時間」、「①運行本数」、「⑩バス停の待合環境」の不満足（不満+やや不満）の割合が高くなっています。
- 重要度（特に重要+重要）では、「①運行本数」、「②運行経路」、「⑧定時性」、「⑰運転の安全性」を重要とする割合が高くなっています。



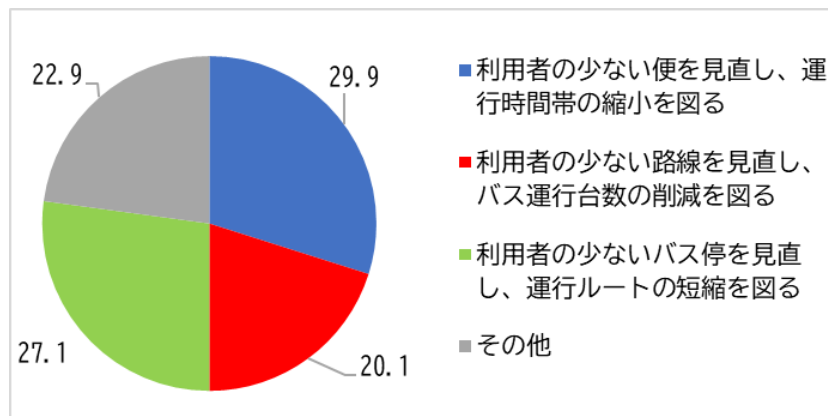
H28年度調査【問4(こまぐる)×問13】



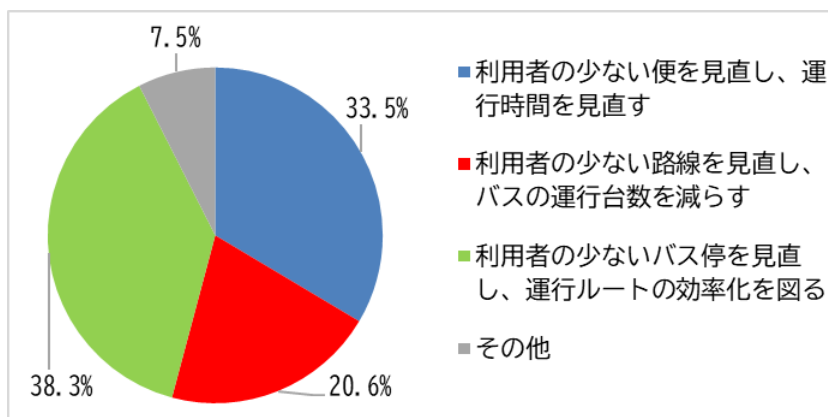


【問7】こまくるの効率性を高めるための施策

- 「利用者の少ない便を見直し、運行時間帯の縮小を図る」が約30%と最も多く、次いで、「利用者の少ないバス停を見直し、運行ルートの短縮を図る」が約27%となっています。
- R3年度結果と比較した場合、「運行時間帯の縮小」が約4ポイント増加する一方、「運行ルートの短縮（効率化）」が約11ポイント減少しています。

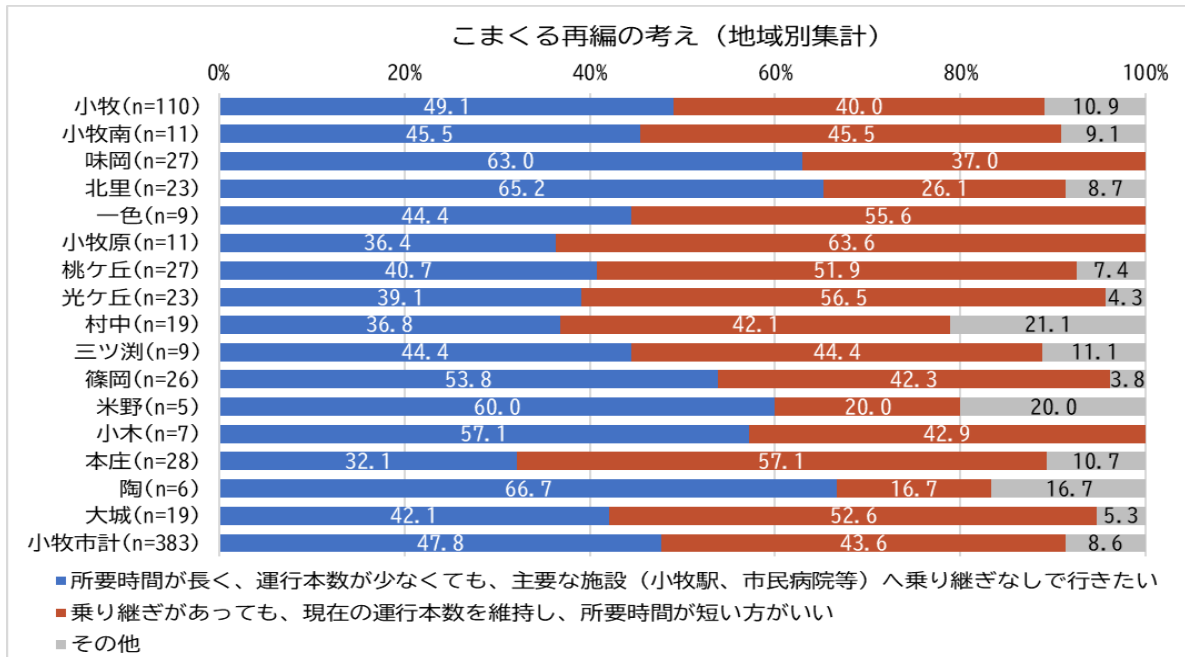


R3年度調査【問15④】

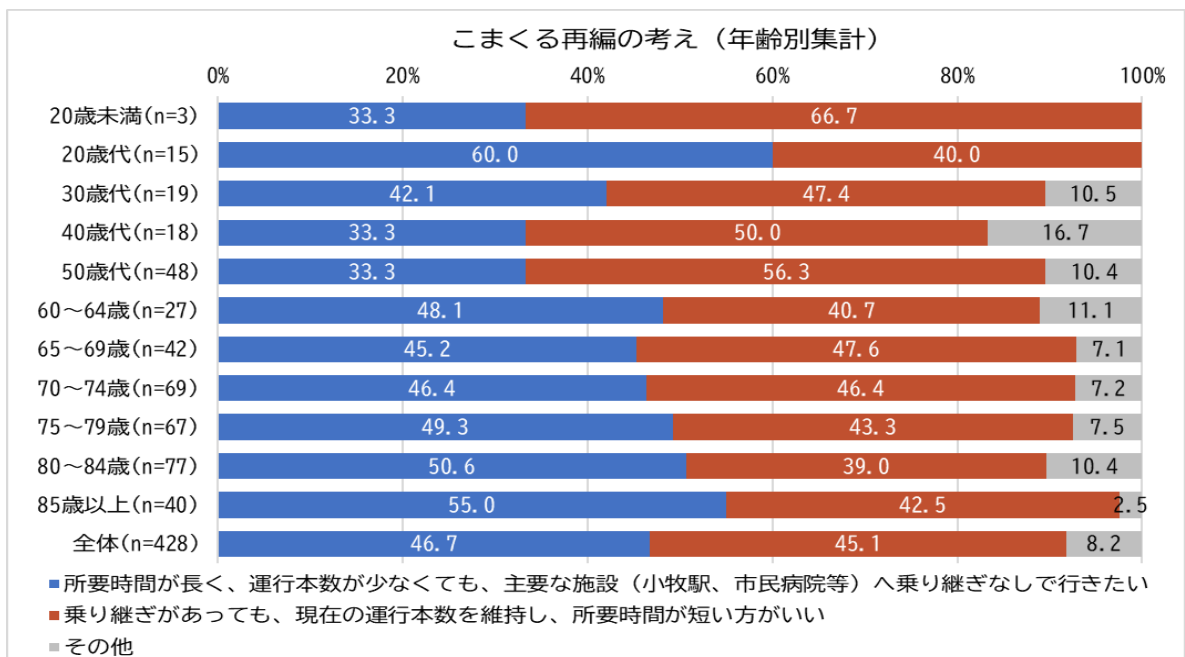


【問9】こまくる再編の考え

- 小牧市計では、「所要時間が長く、運行本数が少なくても、主要な施設（小牧駅、市民病院等）へ乗り継ぎなしで行きたい」が約48%に対して、「乗り継ぎがあっても、現在の運行本数を維持し、所要時間が短い方がいい」が約44%と概ね同程度となっています。
- 地域別にみた場合、「所要時間が長く、運行本数が少なくても、主要な施設（小牧駅、市民病院等）へ乗り継ぎなしで行きたい」は「陶」、「北里」、「味岡」、「乗り継ぎがあっても、現在の運行本数を維持し、所要時間が短い方がいい」は「小牧原」、「本庄」、「一色」が多くなっています。

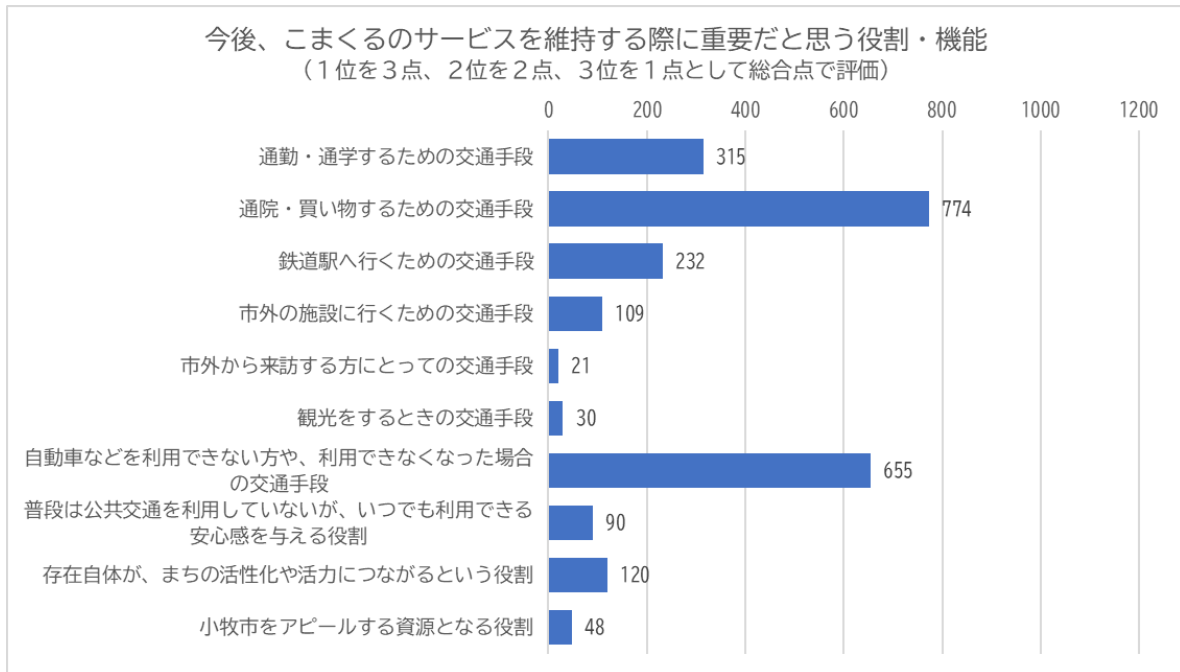


- 全年齢層では、「所要時間が長く、運行本数が少なくても、主要な施設（小牧駅、市民病院等）へ乗り継ぎなしで行きたい」が約47%に対して、「乗り継ぎがあっても、現在の運行本数を維持し、所要時間が短い方がいい」が約45%と概ね同程度となっています。
- 年齢別にみた場合、20歳代と80歳以上は「所要時間が長く、運行本数が少なくても、主要な施設（小牧駅、市民病院等）へ乗り継ぎなしで行きたい」が多く、40歳代と50歳代は「乗り継ぎがあっても、現在の運行本数を維持し、所要時間が短い方がいい」が多くなっています。

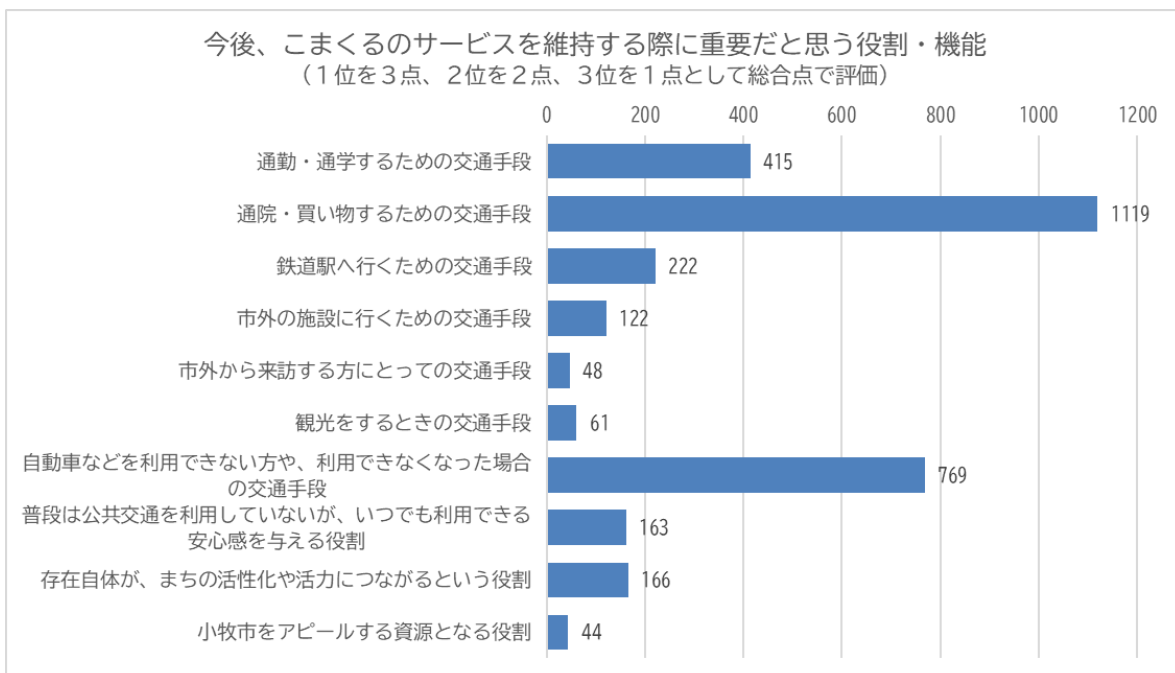


【問10】 今後、こまくるのサービスを維持・拡充していく際に、重要だと思う役割・機能

- 全体では、「通院・買い物するための交通手段」が774点と最も多く、次いで、「自動車などを利用できない方や、利用できなくなった場合の交通手段」が655点、「通勤・通学するための交通手段」が315点の順となっています。
- R3年度調査結果と比較した場合、回答数が違うため総合評価点数は異なるものの、こまくるのサービスを維持・拡充していく際に、重要だと思う役割・機能の順番に変わりはありません。

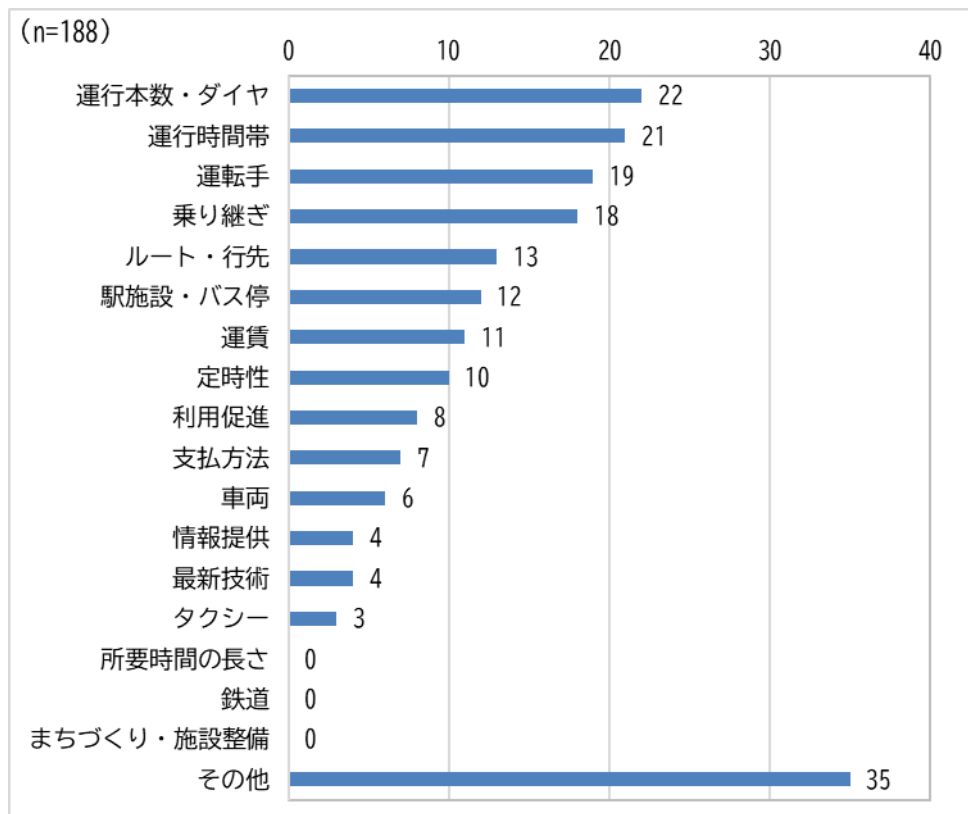


R3年度調査【問22】



【問 22】公共交通に対する考えやアイデア

■公共交通に対する考えやアイデア（自由意見）は、「運行本数・ダイヤ」が 22 件と最も多く、次いで「運行時間帯」が 21 件、「運転手」が 19 件、「乗り継ぎ」が 18 件の順となっています。

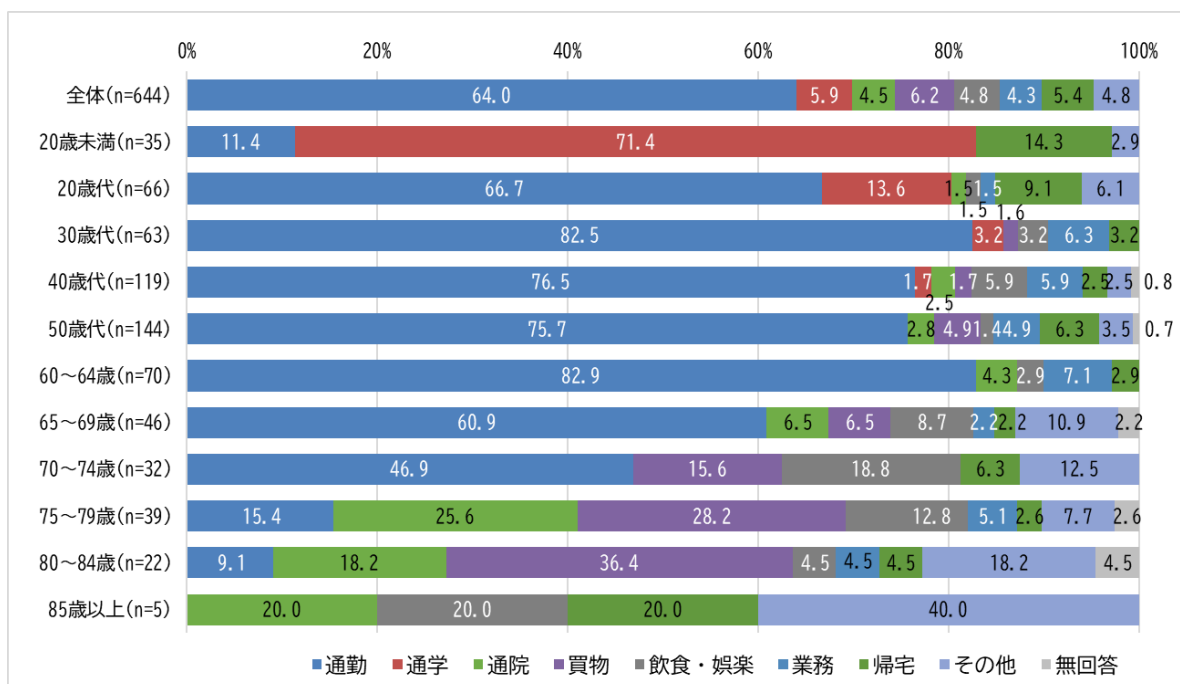


<路線バス>

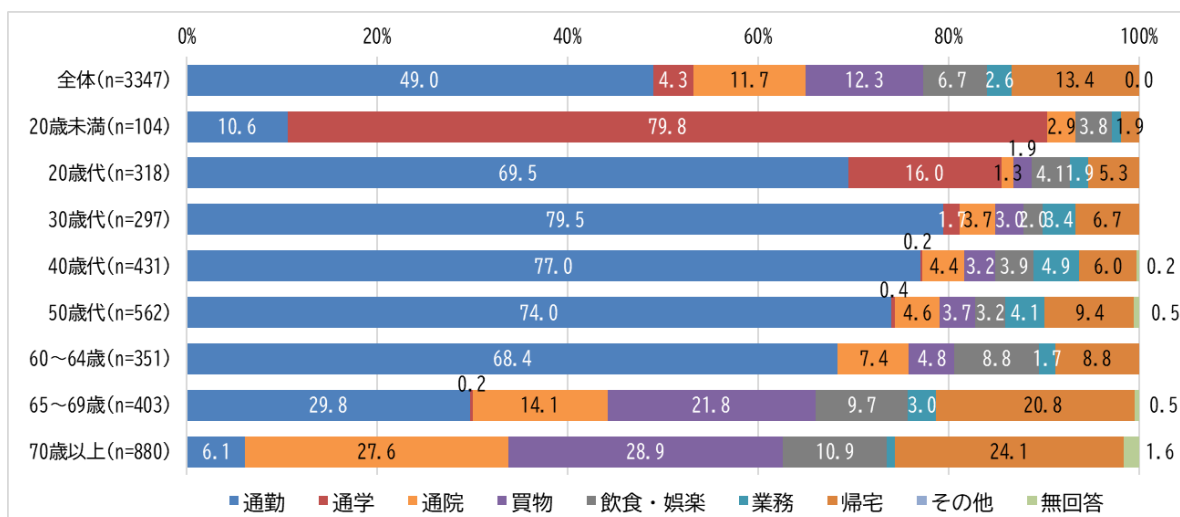
【問4⑤】利用目的

■全体では、「通勤」が約64%と最も多く、次いで、「買物」・「通学」が各約6%となっています。

■H28年度調査結果では、「通勤」が約49%と最も多く、次いで、「買物」・「通院」が各約12%となっており、「通勤」の割合が約15ポイント増加する一方、「買物」・「通院」の割合が各約6ポイント減少しています。

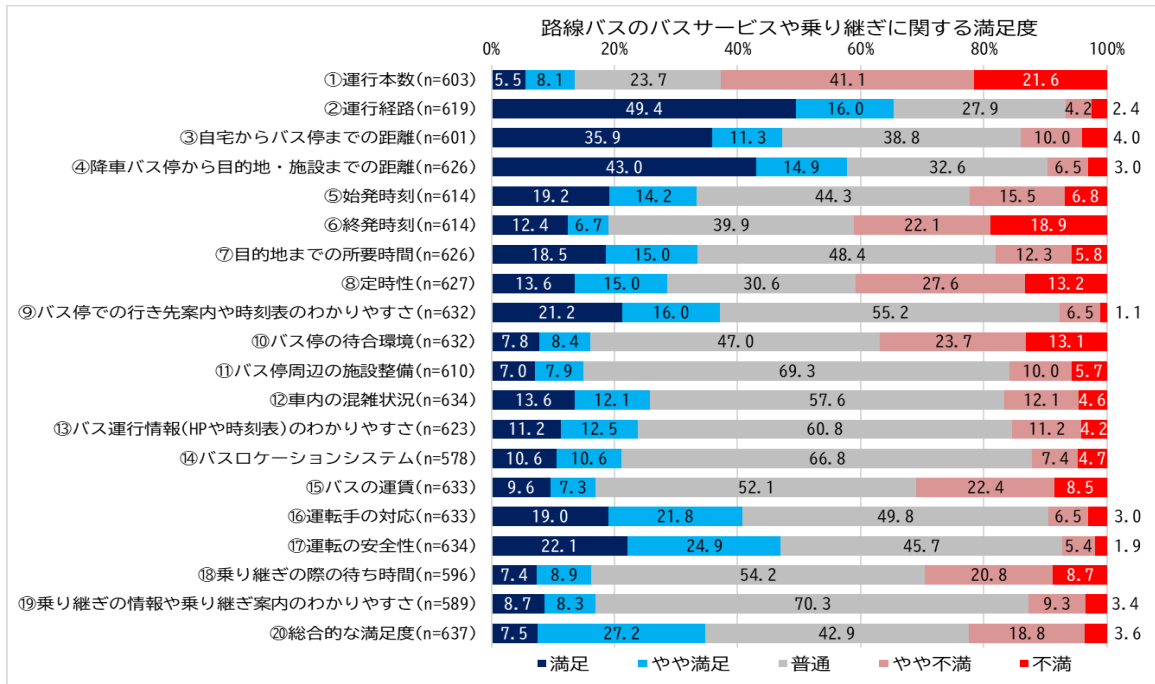


H28年度調査【問7】

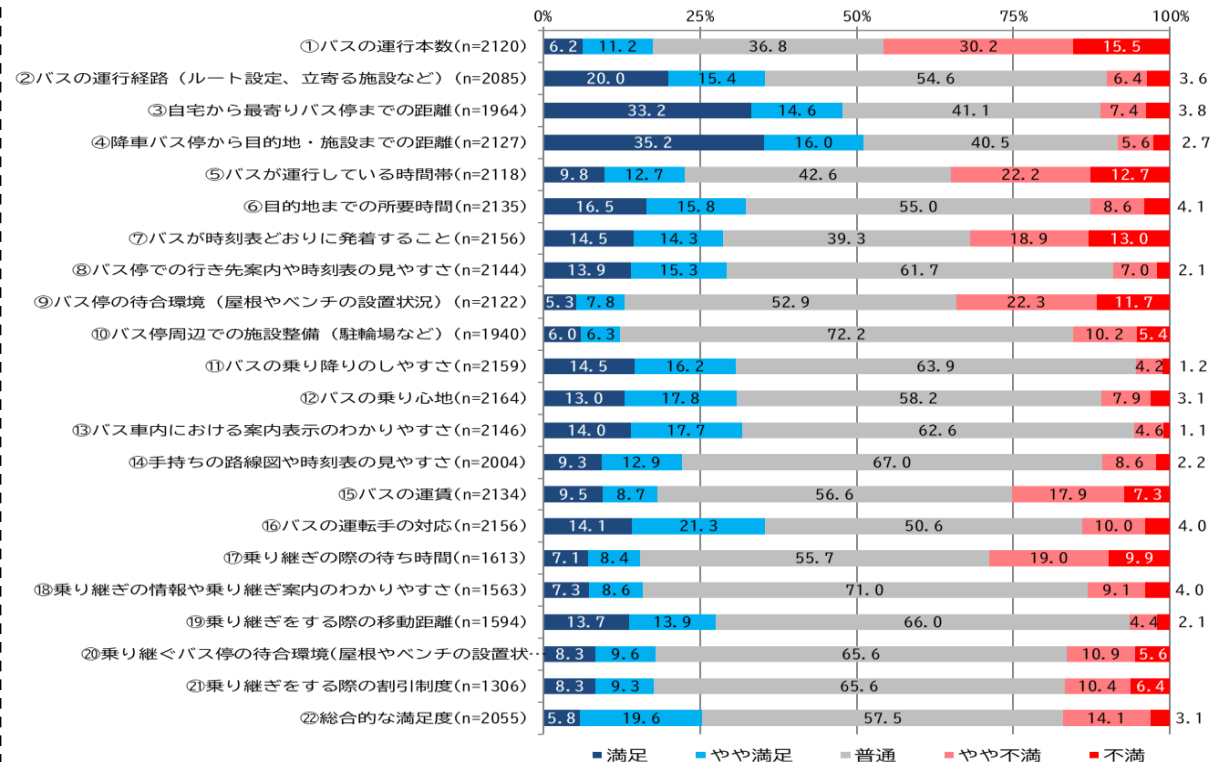


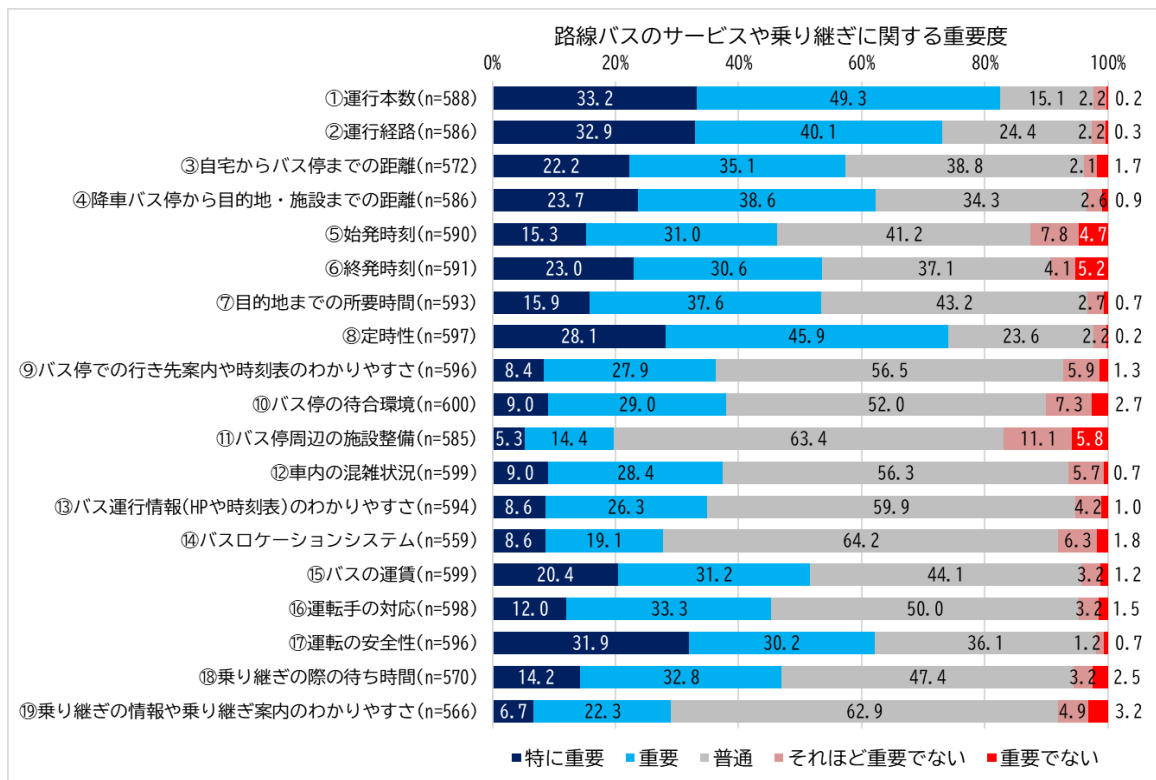
【問6】バスのサービスや乗り継ぎに関する満足度・重要度

- 総合的な満足度は、普通以上（満足+やや満足+普通）が約78%となっており、H28年度調査結果と比較した場合、普通以上（満足+やや満足+普通）が約5ポイント減少しています。
- サービス項目別にみると、「②運行経路」、「④降車バス停から目的地・施設までの距離」、「③自宅からバス停までの距離」の満足度（満足+やや満足）の割合が高い一方、「①運行本数」、「⑥終発時刻」、「⑧定時性」の不満足（不満+やや不満）の割合が高くなっています。
- 重要度（特に重要+重要）では、「①運行本数」、「⑧定時性」、「②運行経路」を重要とする割合が高くなっています。



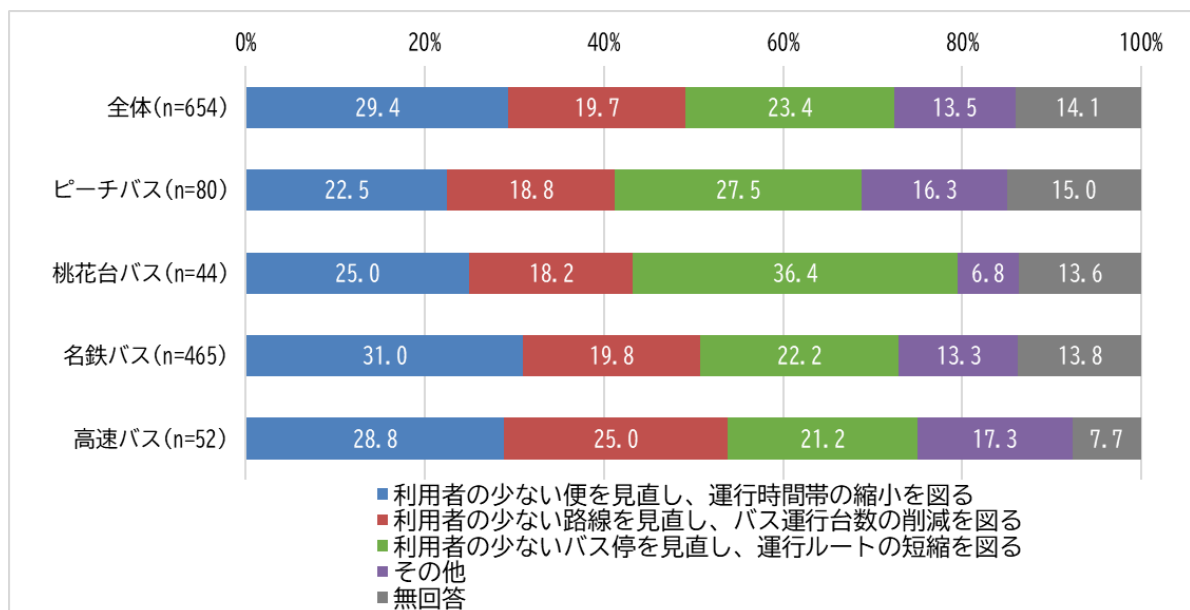
H28年度調査【問4(ピーチバス・桃花台バス・名鉄バス)×問13】





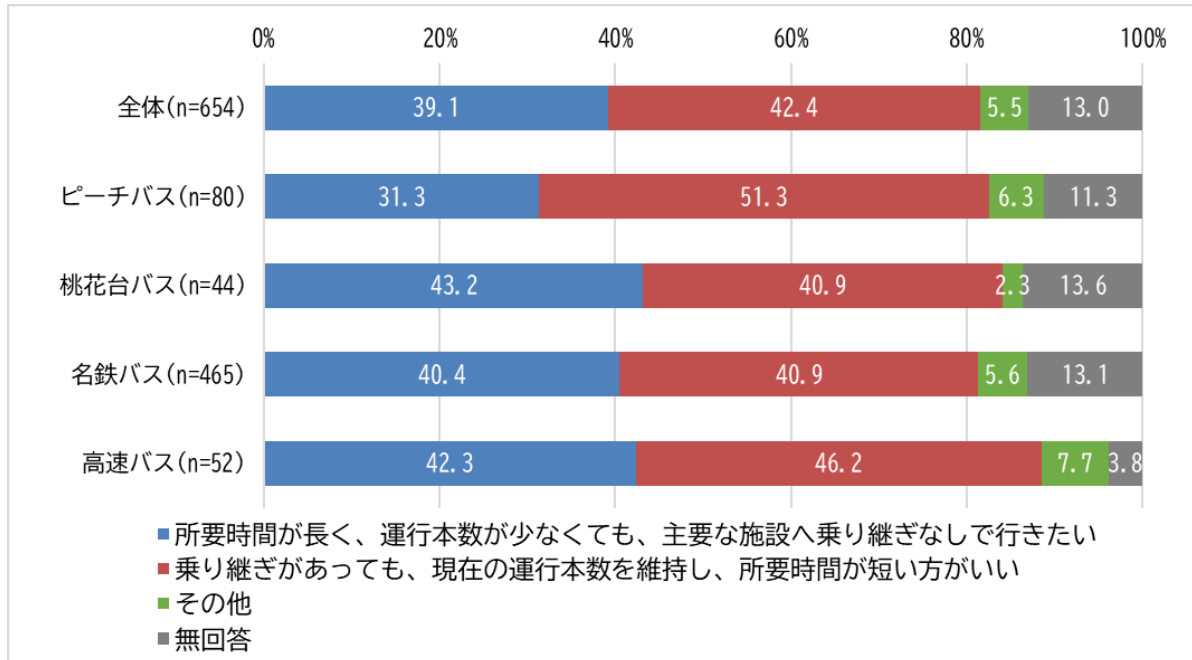
【問7】こまくるの効率性を高めるための施策

- 全体では、「利用者の少ない便を見直し、運行時間帯の縮小を図る」が約29%と最も多く、次いで、「利用者の少ないバス停を見直し、運行ルート短縮を図る」が約23%、「利用者の少ない路線を見直し、バス運行台数の削減を図る」が約20%の順となっています。
- 事業者区分で見た場合、桃花台バスの「利用者の少ないバス停を見直し、運行ルート短縮を図る」の割合が他の事業者区分と比較して多くなっています。



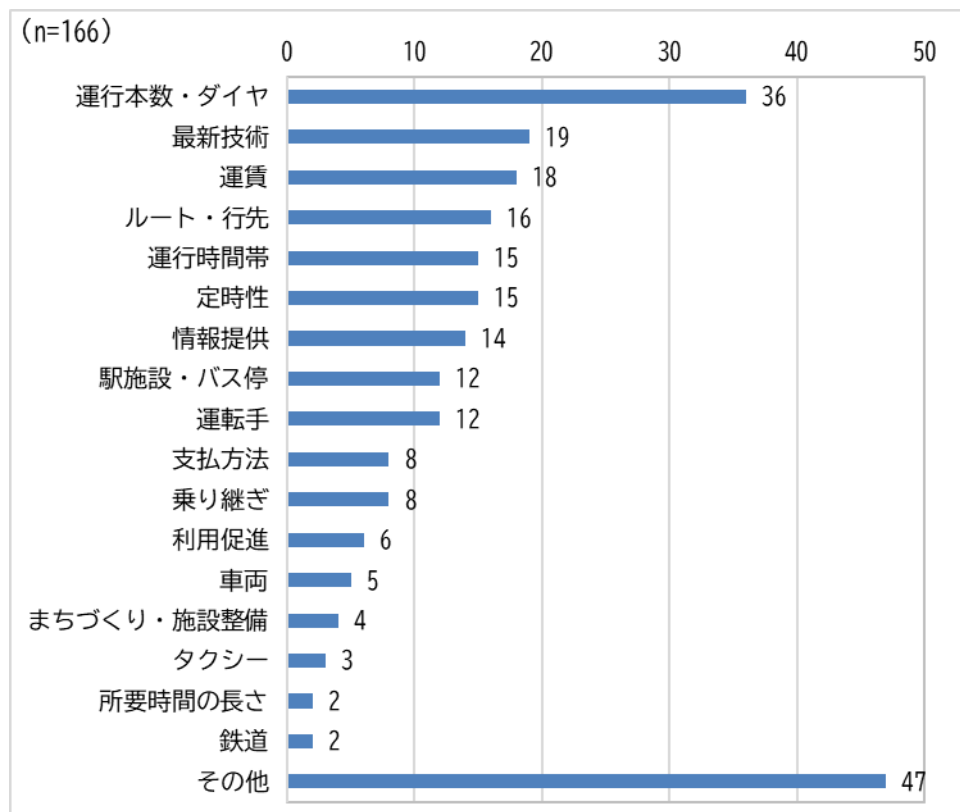
【問9】こまくる再編の考え

- 全体では、「乗り継ぎがあっても、現在の運行本数を維持し、所要時間が短い方がいい」が約42%と最も多く、次いで「所要時間が長く、運行本数が少なくても、主要な施設へ乗り継ぎなしで行きたい」が約39%となっています。
- 事業者区分で見た場合、ピーチバスの「乗り継ぎがあっても、現在の運行本数を維持し、所要時間が短い方がいい」の割合が他の事業者区分と比較して多くなっています。



【問15】公共交通に対する考えやアイデア

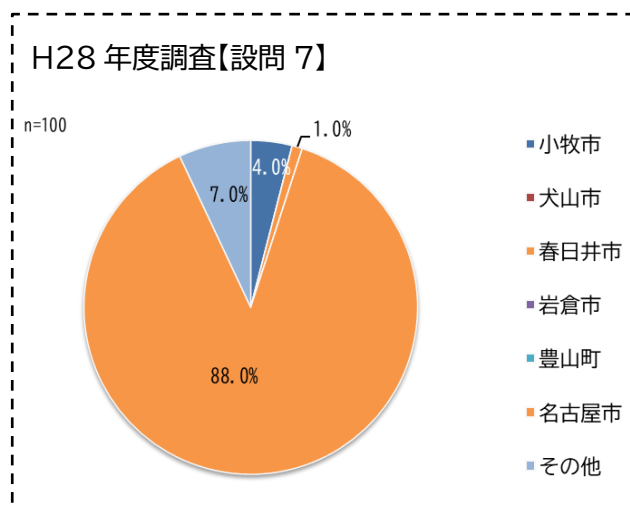
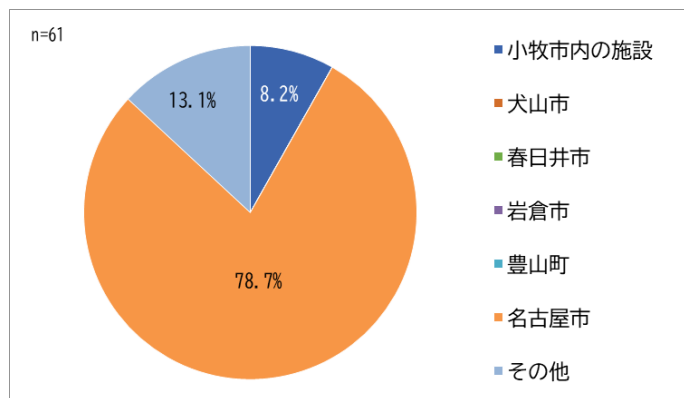
- 公共交通に対する考えやアイデア（自由意見）は、「運行本数・ダイヤ」が36件と最も多く、次いで「最新技術」が19件、「運賃」が18件の順となっています。



<高速バス>

【問4④】最終目的地

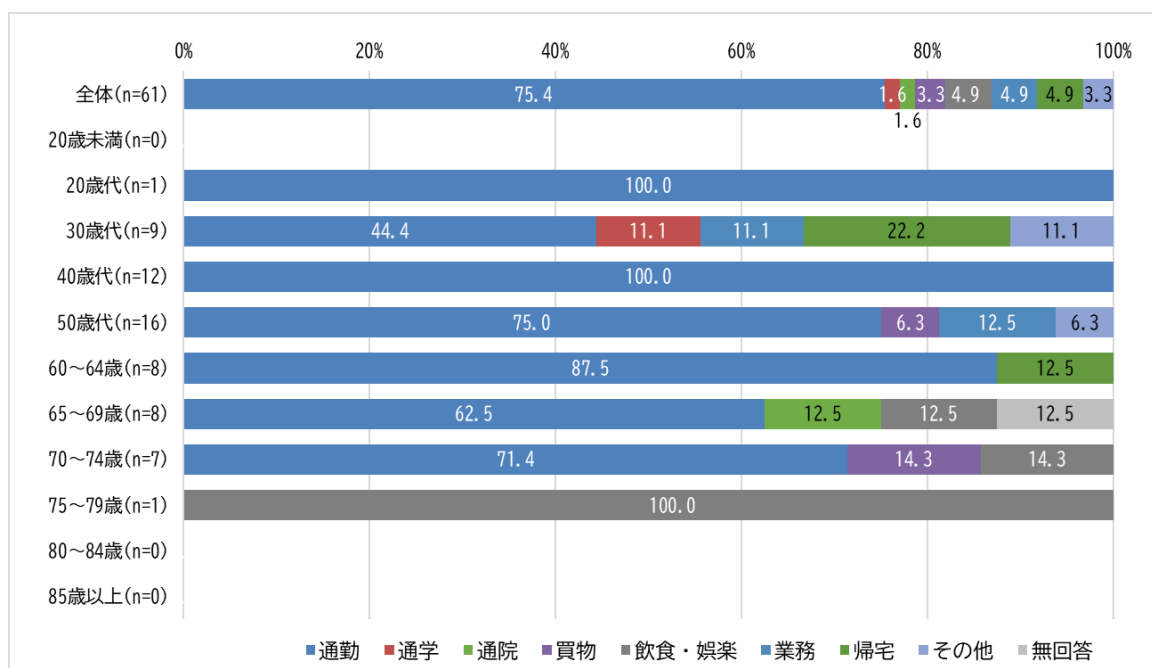
- 「名古屋市」が約79%と最も多くなっています。
- H28年度調査結果と比較した場合、「名古屋市」の割合が約9ポイント減少しています。



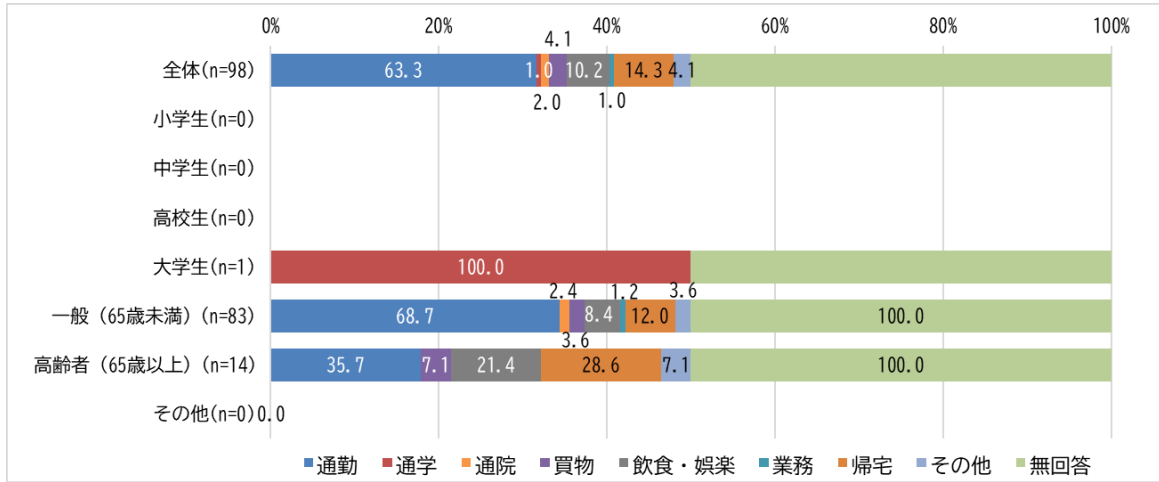
【問4⑤】利用目的

- 全体では、「通勤」が約75%と主体を占めています。
- H28年度調査結果と比較した場合、「通勤」目的が約12ポイント増加する一方、「飲食・娯楽」目的が約5ポイント減少しています。

*年齢階層別の回答数が少ないため、構成比の取り扱いには注意が必要です。



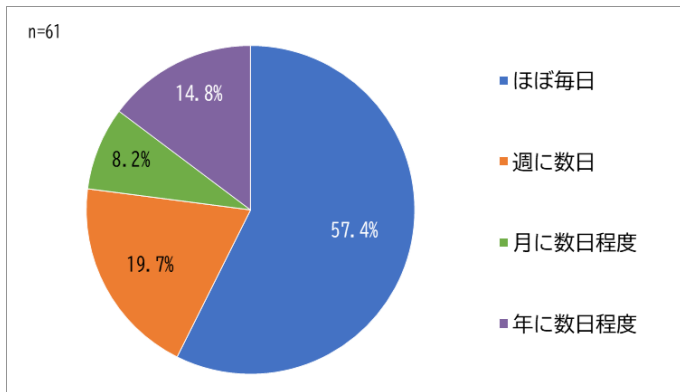
H28 年度調査【設問 6】



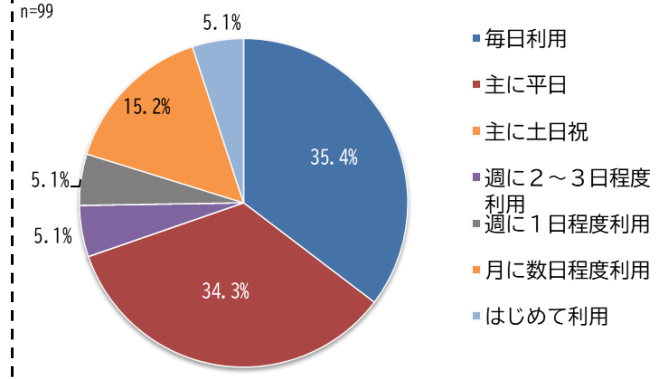
【問 4⑦】 利用頻度

■ 「ほぼ毎日」が約 57%と最も多くなっています。

■ H28 年度調査結果と比較した場合、「ほぼ毎日」（毎日利用+主に平日）の割合が約 13 ポイント減少しています。



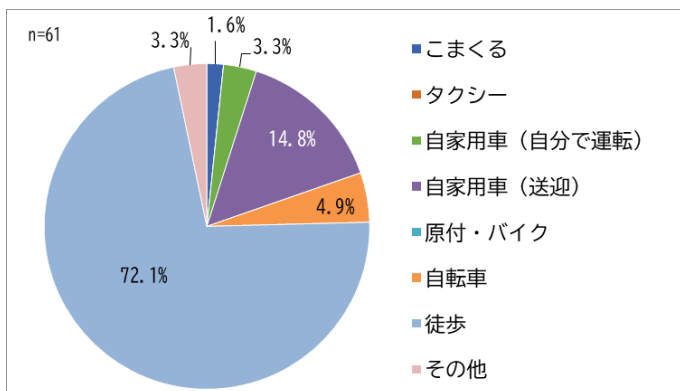
H28 年度調査【設問 10】



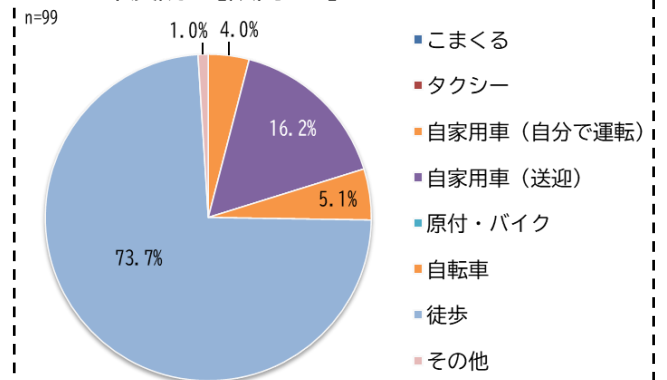
【問 5】 中央道桃花台バス停への交通手段（または中央道桃花台バス停からの交通手段）

■ 「徒歩」が約 72%と最も多くなっています。

■ H28 年度調査結果と比較した場合、徒歩が約 74%と同様な傾向となっています。



H28 年度調査【設問 11】

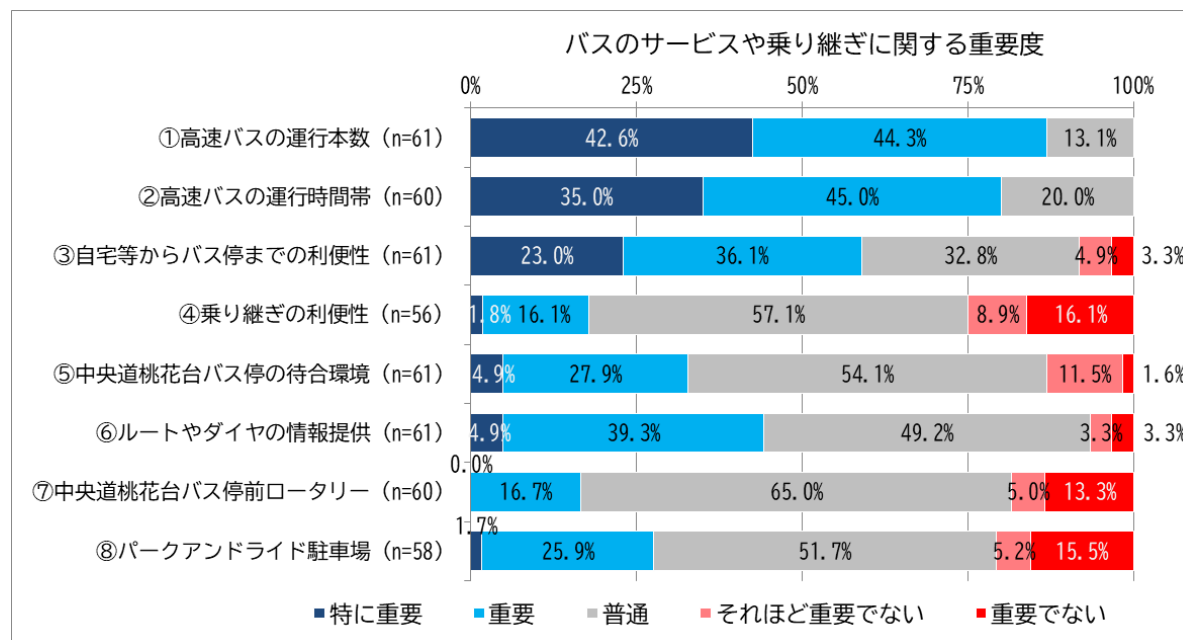
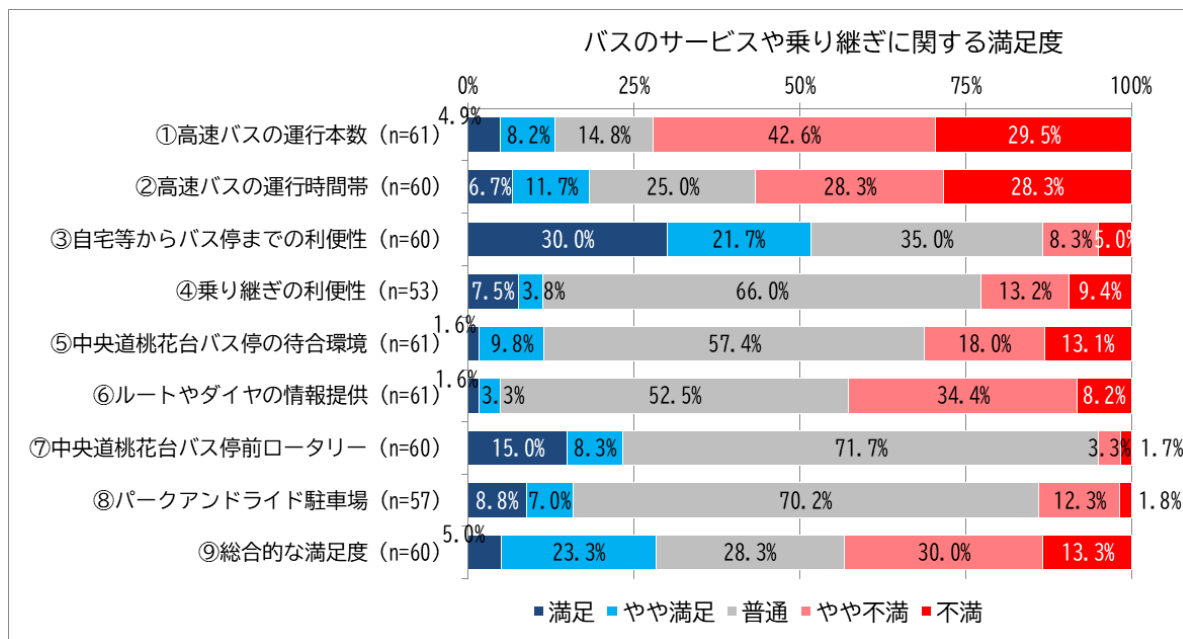


【問6】高速バスのサービスや乗り継ぎに関する満足度と重要度

■総合的な満足度は、普通以上（満足+やや満足+普通）が約57%となっています。

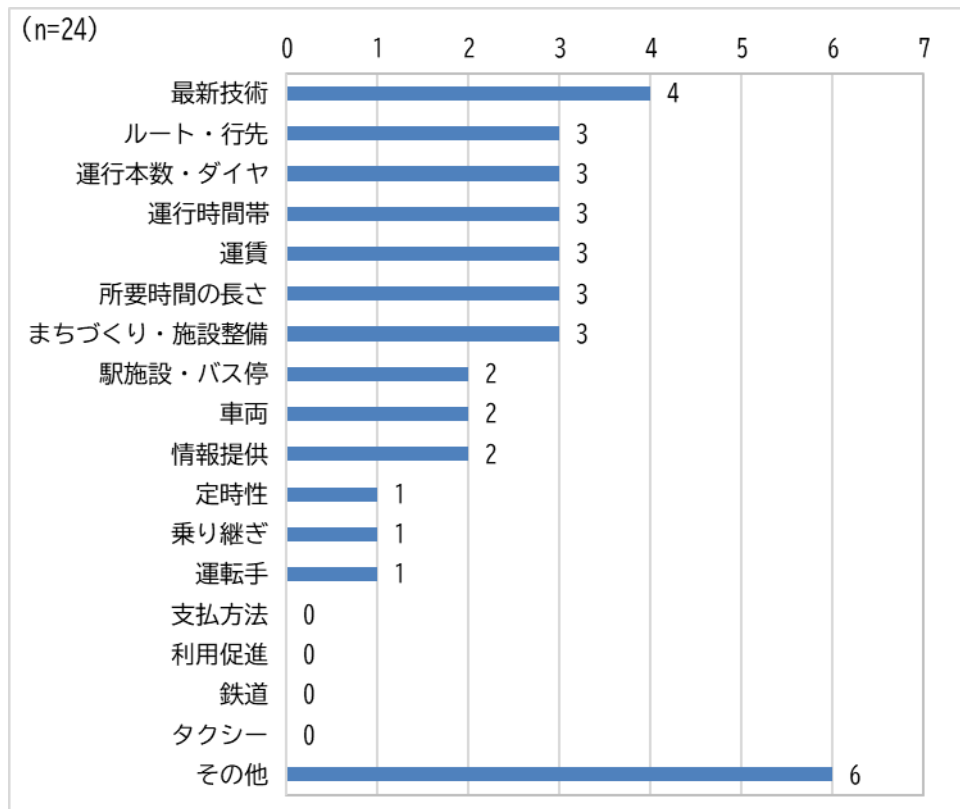
■サービス項目別で見ると「③自宅等からバス停までの利便性」、「⑦中央道桃花台バス停前ロータリー」の満足度（満足+やや満足）の割合が高い一方、「①高速バスの運行本数」、「②高速バスの運行時間帯」の不満足（不満+やや不満）の割合が高くなっています。

■重要度は、「①高速バスの運行本数」、「②高速バスの運行時間帯」、「③自宅等からバス停までの利便性」を重要（特に重要+重要）とする割合が高くなっています。



【問 15】公共交通に対する考えやアイデア

■公共交通に対する考えやアイデア（自由意見）は、「最新技術」が4件、「ルート・行先」・「運行本数・ダイヤ」・「運行時間帯」・「運賃」等」が各3件となっています。



4) 企業アンケート調査

(1) 調査の概要

①調査の目的

本調査は、市内に立地する企業における従業員の通勤実態や公共交通に関する問題点などを把握することを目的として実施しました。

主な内容は、回答者属性（性別、年齢、居住地等）、通勤における交通手段、通勤での公共交通利用の可能性とその条件などです。

②調査対象及び調査方法

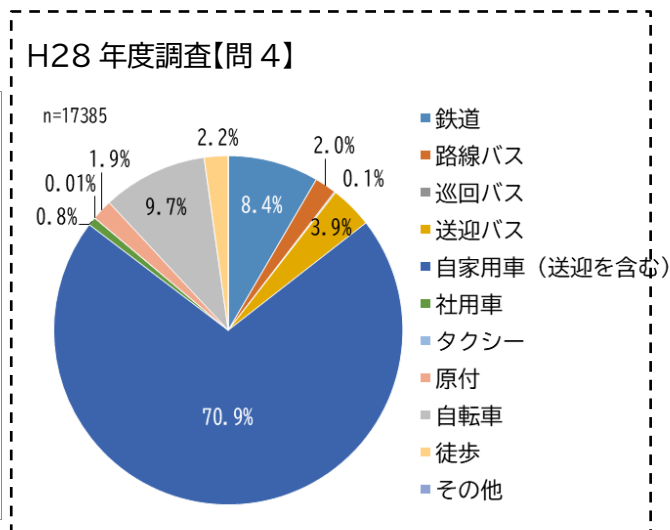
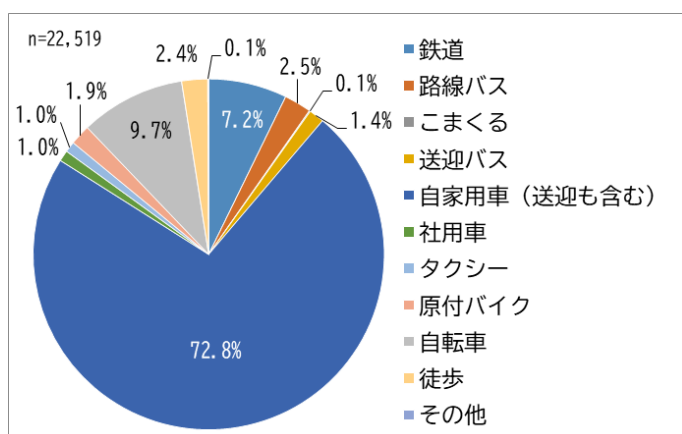
項目	内容
調査対象	小牧市内に立地する従業員 50 人以上の事業所
調査方法	配布・回収とも郵送
調査時期	令和 5 年 11 月 13 日（月）～ 令和 5 年 11 月 27 日（月）
配布数	361 票
回収数	157 票
回収率	43.5%

(2) 調査結果の概要（抜粋）

【問3】従業員の通勤時の交通手段

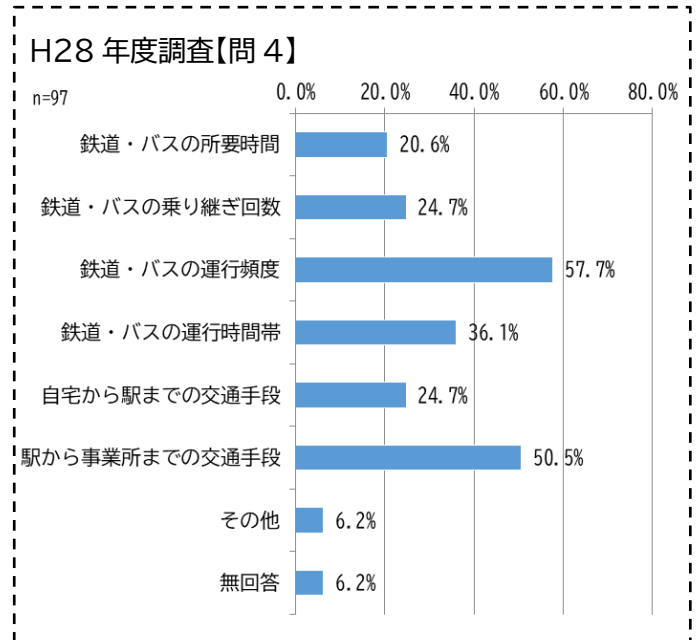
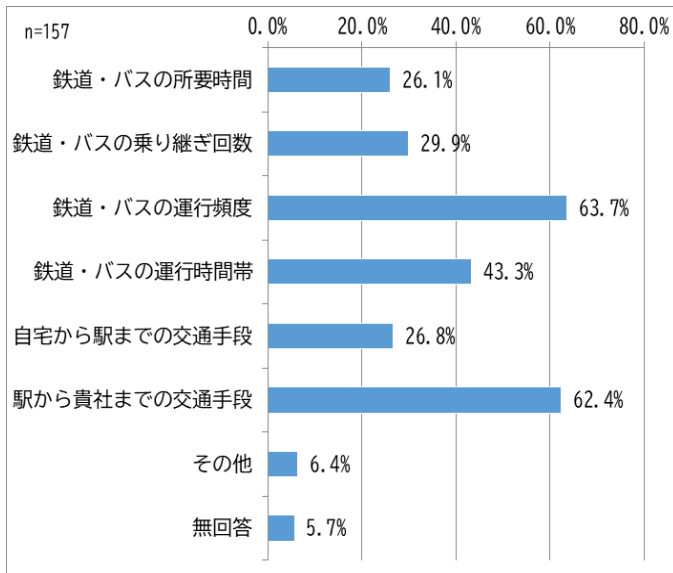
■「自家用車」が約 73%と最も多く、次いで「自転車」が約 10%となっています。

■H28 年度調査結果と比較した場合、概ね同様な傾向にあります。



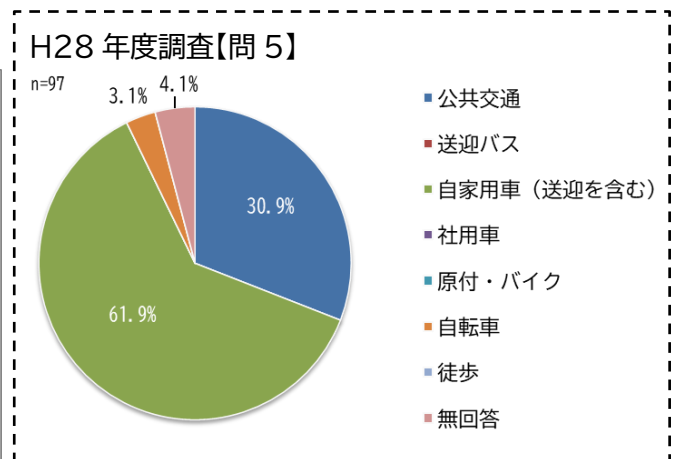
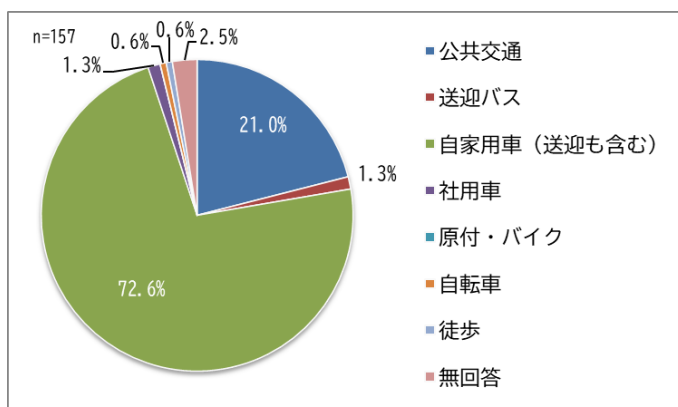
【問4】公共交通を利用する際に不便なこと

- 「鉄道・バスの運行頻度」が約64%と最も多く、次いで「駅から貴社までの交通手段」が約62%の順となっています。
- H28年度調査結果と比較した場合、構成比は異なるものの、公共交通を利用する際に不便なこととして挙げられた項目の順番に変わりはありません。



【問5】企業にとって望ましい通勤手段

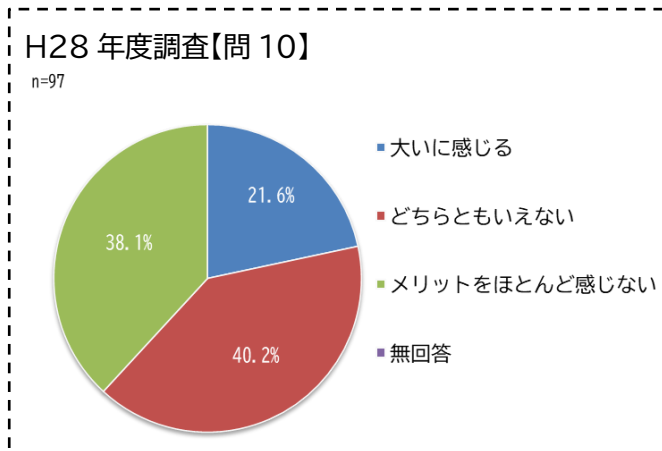
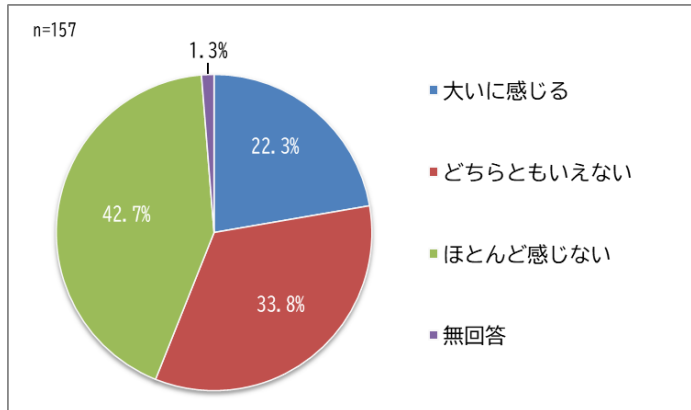
- 「自家用車（送迎も含む）」が約73%と最も多く、次いで「公共交通」が約21%となっています。
- H28年度調査結果と比較した場合、「公共交通」が約10ポイント減少する一方、「自家用車（送迎も含む）」が約11ポイント増加しています。



【問8】公共交通の利用を促進することのメリット

■「ほとんど感じない」が約43%と最も多く、次いで「どちらともいえない」が約34%となっています。

■H28年度調査結果と比較した場合、「ほとんど感じない」が約5ポイント増加しています。



【問15】公共交通に対する考えやアイデア

■公共交通に対する考えやアイデア（自由意見）は、「ルート・行先」が12件と最も多く、次いで「運行本数・ダイヤ」・「駅施設・バス停」が各6件、「まちづくり・施設整備」が5件の順となっています。

